

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・ キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	キャリアプログラムⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、花屋にて店長を務め、ウェディングブーケや結婚式場での装飾を行う。その後、専門学校のフラワーコース担任として10年勤務。							
【授業の学習内容】							
専門学生が社会人として必要なキャリア形成力と学生生活の心構えを身につける。							
【到達目標】							
自己理解、キャリア設計、コミュニケーション力、社会人基礎力を養う。							

回数	授業計画・内容
1回目	自己紹介を行い、グループワークを通してお互いを知る。
2回目	学校ルールの確認、心構えを知る。
3回目	3年間で学ぶべきことを知り、卒業後の自分をイメージする。
4回目	各スタッフによる自己紹介を行う。
5回目	自己理解と強み・弱みの分析を行う。
6回目	価値観とライフプランの整理を行う。
7回目	キャリアデザインの基本概念について学ぶ。
8回目	業界研究と職種理解の方法について知る。
9回目	履歴書・エントリーシートの作成を行う。
10回目	ビジネスマナーと社会人基礎力を身に付ける。
11回目	コミュニケーション力向上のためグループワークにて発表を行う。
12回目	チームワークと協働の重要性を学ぶ。
13回目	ストレスマネジメントと自己管理について学ぶ。
14回目	時間管理と効率的学習法について知る。
15回目	情報収集力とネットリテラシーについて学ぶ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・ キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ウォーキングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。 その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。 一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面を整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、たたずまいを美しく綺麗に整えることができるようになる。 身だしなみを整えると言われるの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解しできるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけくわてて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験50%・筆記試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
教科書は適時、配布/持ち物:スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	ビジネスコンピューティングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルージョンのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。 ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なメールマナーなどを学ぶ。							
回数	授業計画・内容						
1回目	ITリテラシー						
2回目	Word① 入力練習・Word基礎(文字入力)・ビジネス文書作成・文書編集①						
3回目	Word② 入力練習・文書作成・編集②（効率的な編集方法を知り、手早く文書作成が出来るようになる）						
4回目	Word③ 入力練習・表の作成①（表を作成することにより、文書の可視化が出来るようになる）						
5回目	Word④ 入力練習・印刷・図形(地図)（ペーパーロスのない印刷方法や図形描写に慣れ、印刷が出来るようになる）						
6回目	Word⑤ 入力練習・便利な機能（検索、置換機能などを知り、効率的な文書編集が出来るようになる）						
7回目	Word⑥ 入力練習・ビジュアルな文書作成（ワードアートや画像の利用により可視化された文書を作れるようになる）						
8回目	Word⑦ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
9回目	Word⑧ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
10回目	Word⑨ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
11回目	Word⑩ 入力練習・演習問題（演習問題を実施することにより、ビジネス文書作成に慣れる。どんな文書も作れるようになる）						
12回目	PowerPoint① PowerPointの基本(プレゼンテーションを知る。スライド作りが出来るようになる)						
13回目	PowerPoint② 図形やイラスト・画像の挿入(著作権について知り、コンプライアンスを学ぶ。効率のよい美しいスライド作りが出来るようになる)						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験50%・筆記試験50%						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	コミュニケーションスキルアップ検定	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
良好な人間関係や信頼関係に欠かせないビジネスマナー。ビジネスシーンに必要な基本的マナーを学び、実社会で即戦力となる人材を育成するための授業。ロールプレイングや演習などの体験・体得からホスピタリティ業界で求められる信頼され、明るく魅力的な人間像を目指す授業。授業ごとに振り返りを行う。							
【到達目標】							
コミュニケーションスキルアップ検定の学びを通じて、1. 人間関係に必要な基本的なコミュニケーションスキルを理解ができる。2. 学んだコミュニケーションスキルを実践できるようになる。3. コミュニケーションに必要なマナーやルールを身に付けることで、自信を持って発言・行動できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション
2回目	コミュニケーションスキルアップ検定試験対策:コミュニケーションについて・基本的対話スキルが分かるようになる
3回目	コミュニケーションスキルアップ検定:基本的対話スキルが分かるようになる
4回目	コミュニケーションスキルアップ検定:自己表現スキル①が分かるようになる
5回目	コミュニケーションスキルアップ検定:自己表現スキル②が分かるようになる
6回目	コミュニケーションスキルアップ検定:社会的スキル①が分かるようになる
7回目	コミュニケーションスキルアップ検定:社会的スキル②が分かるようになる
8回目	コミュニケーションスキルアップ検定:サービスマインド①が分かるようになる
9回目	コミュニケーションスキルアップ検定:サービスマインド②が分かるようになる
10回目	コミュニケーションスキルアップ検定:事例問題からサービスマインドが分かるようになる
11回目	コミュニケーションスキルアップ検定:理解度チェック
12回目	コミュニケーションスキルアップ検定:最終確認テスト実施
13回目	コミュニケーションスキルアップ検定 実施日
14回目	期末の試験を行う
15回目	授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
スキルアップ検定テキスト	

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	マーケティングⅠ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
マーケティングの基礎知識やフレームワークを中心に学び、社会で活躍する上で大切なスキルである考える力を伸ばし、問題発見力・解決力、提案力を高める。授業では身近な事例を活用した知識習得や個人やグループでの実習を通して学習する。基礎知識習得後は2つの課題演習に取り組み、実務で使える知恵として習得する。							
【到達目標】							
習得したマーケティングの知識やフレームワークを駆使し、真の問題を見つけ出すと共にその解決案を導き出し、成果につながる企画の立案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】本クラスでマーケティングを学ぶ理由、授業の全体像、フレームワークの概略について理解し、受講の目的や意義を理解する。						
2回目	【論理思考の基本技法】演繹法・帰納法・認知バイアスを理解することで自分の頭で考えるコツを学び、基本的な論理思考ができるようになる。						
3回目	【広く深く考える基本技法】分解(分けて考える)の基本技法を習得し、物事を”広く深く”考えることができるようになる。						
4回目	【マーケティング基礎知識1】「マーケティングの全体像」と「モノの価値」を学び、マーケティング視点(提供者視点)の発想ができるようになる。						
5回目	【マーケティング基礎知識2】「顧客の構造」と「購買行動原理」を学び、マーケティング視点(顧客視点)の発想ができるようになる。						
6回目	【マーケティング演習1-1】カフェの企画。PEST,3C,SWOTフレームワークを用いて、内外環境の調査・分析ができるようになる。						
7回目	【マーケティング演習1-2】カフェの企画。STPフレームワークを用いて、マーケティングの基本戦略が立案ができるようになる。						
8回目	【マーケティング演習1-3】カフェの企画。4Pフレームワークを用いて、具体的なマーケティング施策が立案ができるようになる。						
9回目	【マーケティング演習2-1】ブライダル新サービスの企画。演習1で行った内外環境の調査・分析をさらに深く考えられるようになる。						
10回目	【マーケティング演習2-2】ブライダル新サービスの企画。演習1で行ったマーケティングの基本戦略をさらに深く考えられるようになる。						
11回目	【マーケティング演習2-3】ブライダル新サービスの企画。演習1で行った具体的なマーケティング施策をさらに深く考えられるようになる。						
12回目	【プレゼンテーションの基本技法】自身の考えを整理して客観視する基本技法を習得し、成果につながる企画の立案及び伝達ができるようになる。						
13回目	【演習2プレゼンテーション】個人で立案したプランを発表し納得感のある伝え方ができるようになる。また他者の企画を聞くことで思考の幅を増やす。						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験50%・筆記試験50%						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	伝統文化Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1992年～2010年まで、グラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインい、専門学校関連にてディレクション等の仕事を行う。華道歴25年、個人にて華道教室を行って10年。茶道歴17年、茶道教室を行って4年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。							
【授業の学習内容】							
茶道全般にわたる基礎事項(あいさつ、おじぎ、立ち居振る舞い)と・お茶お菓子のいただき方、茶道の基本、薄茶のたて方を学びます。 また日常生活において異空間の時間(実習)と感じると思います。難しいとならないように親しみやすく行います。							
【到達目標】							
茶道の基本(知識や技能を習得)と、盆略点前が出来るようになります。 茶道のお稽古を通じて、自然と礼儀作法を身に付けることや、心構え、感性を磨き、おもてなしの心を養います。 家でも行えるカジュアル茶道も行います。							

回数	
1回目	茶道の心得と基礎知識・・・注意事項、お辞儀のしかた、袱紗さばきが出来ようになる。
2回目	茶道基礎知識と割稽古・・・道具の説明、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
3回目	割稽古・・・前週の復習、袱紗さばき、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
4回目	盆略点前・・・茶巾のたたみ方が出来るようになる。点てるまでの通し稽古が出来ようになる。
5回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
6回目	盆略点前・・・復習、お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
7回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来ようになる。
8回目	カジュアル茶道:テーブルでの茶道が出来ようになる。
9回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
10回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
11回目	盆略点前の通し稽古・・・実技試験に向けての復習
12回目	復習をしてから、盆略点前の実技試験
13回目	復習をしてから、柄杓を使ったお点前が出来ようになる。
14回目	柄杓を使ったお点前が出来ようになる。筆記試験に向けて復習
15回目	筆記試験、他の茶道お点前の体験
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	マナー・プロトコール3級	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製菓会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルージブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、グローバル化する社会で期待されるマナー・プロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」など目に見える「形」として表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前期授業終了後に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、合格する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコール検定2級の検定概要が理解できる						
2回目	第1章 マナーの歴史と意味:西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーの特徴について説明できるようになる 確認テスト①:序章・第1章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第2章 国際人としてのプロトコール:プロトコールの原則、具体的な席次例について説明できるようになる						
3回目	第2章 国際人としてのプロトコール:社交の場でのコミュニケーション(パーティの種類、パーティのマナー)、握手と紹介、外国人への贈り物について、説明できるようになる						
4回目	第2章 国際人としてのプロトコール:国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーションについて説明できるようになる 確認テスト②:第2章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(第一印象・挨拶・お辞儀・表情・身だしなみ・立ち居振る舞い)について説明できるようになる						
5回目	第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(言葉遣い・聴き方の基本・話し方の基本)、礼装の基準について説明できるようになる						
6回目	第3章 社会人に必要なマナー:喜ばれる贈答・手紙のマナーについて説明できるようになる 確認テスト③:第3章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 定期テスト①:序章～第3章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
7回目	定期テスト①の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネスマナーの必要性、社会人としての心構え、名刺の扱い方、電話応対、トラブル対応、来客応対について説明できるようになる						
8回目	第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネス文書のマナーについて説明できるようになる 確認テスト④:第4章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第5章 食事のマナー:食事の作法の基本、和食のマナー、和室の作法について説明できるようになる						
9回目	第5章 食事のマナー:、西洋料理のマナー、中国料理・各国料理のマナーについて説明できるようになる 確認テスト⑤:第5章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト②:第4章～第5章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
10回目	定期テスト②の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第7章「冠」のしきたり:冠婚葬祭とは、日本の主な通過儀礼(人生の節目のしきたり、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、年祝い、その他のお祝い事)について説明できるようになる						
11回目	確認テスト⑥:第7章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第8章「婚」のしきたり:結婚の変遷、結婚式のマナー(挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー)について説明できるようになる 第9章「葬」のしきたり:仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる						
12回目	第9章「葬」のしきたり:葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 確認テスト⑦:第8・9章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第10章「祭」のしきたり:1～2月の行事について説明できるようになる						
13回目	第10章「祭」のしきたり:3～12月の行事について説明できるようになる 確認テスト⑧:第10章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト③:第7章～10章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
マナー＆プロトコールの基礎知識、マナー・プロトコール検定2級・3級問題集、テスト等の講師配布資料							

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	宿泊オペレーションⅠ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテルの顔である、フロントサービス業務の解説並びに実務経験を研修して頂きながら、防犯業務の確認、有事の際のお客様の導きなどを理解して頂きます。							
【到達目標】							
実際に実務でフロントにて勤務しても、わからない事案がないようなフロントスタッフを目指して頂きます。							

回数	
1回目	①講師の自己紹介並びに生徒の自己紹介 ②授業目的の説明
2回目	ホテルの宿泊フロントサービス課にある部署について解説出来るようになる。
3回目	ドアマンの必要性を解説してドアマン業務を理解して大まかな業務説明が出来るようになる。
4回目	ドアマンの主な業務及び必要な知識、他部署との連携など解説する。後半部分はドアマンになる為のシティinfoを習得する。
5回目	ベルマンの歴史、ホテルのロビー内での待機中の要点&役割を理解する。
6回目	ベルマンの主な業務及び接客サービスを解説して理解する。ベルマンの小テストに使うトークスクリプト配布して暗記をする。
7回目	ベルマンの小テストにおける最終確認を行い ベルマンの習得テストの実施を行う。 小テスト①
8回目	ハウスキーパーの業務内容を大まかに解説して理解する。(実際におきる問題点などの営業的な問題と労務的な問題)
9回目	客室の清掃の流れ及び客室内のそれぞれの呼称を説明し、理解して頂く。
10回目	客室内の呼称における小テストを行う。 小テスト②
11回目	コンシェルジュの歴史と資質 必要なスキル求められるや行動を理解し、コンシェルジュの業務説明が出来るようになる。
12回目	コンシェルジュの実務疑似体験を行い コンシェルジュの仕事のレベルを理解する。(各個人にて情報収集を行う。)
13回目	12回目の授業を今度はグループワークにて行い、グループとしての意見の統合や整合性を理解する。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホテルビジネス 基礎編	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	料飲・レストランオペレーションⅠ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャペル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャペル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。またサービス基本実践の演習で各自実務基礎を習得させます。最後に実技試験シミュレーションを行うことで、緊張感を持って楽しく生徒が授業に取り組めるように致します。							
【到達目標】							
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く 奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者者のサービス実技を体験。そして最終はレストランサービスで必要なスキル課題を明確にし、課題実技スキルを習得してもらうことを最終の目標に致します。							

回数	
1回目	アクティブラーニングでコミュニケーションを図る。活発な意見が出るようになる
2回目	おじきの仕方から接客用語唱和 言葉遣いの基本マナーを学び 習得出来る
3回目	ホテルのレストランを知る。おすすめ料理のセールストークを発表
4回目	アメリカンブレックファーストを学び、簡単なオーダーテイクが出来るようになる
5回目	レストランの業務の流れを知り トレーサービスの基礎を全員が習得する
6回目	接客で必要な正しい言葉遣いを学び、皿の持ち方、下げ方の習得をする
7回目	テーブルセッティング方法を習得する(テーブルクロス チャイナ シルバー グラス ナプキン カスターセット)
8回目	西洋料理フルコースの構成の把握と基礎的なサーバーサービスの実習 技術取得
9回目	オーダーテイクの留意点を学び、ワイン お水サービスの実習及び技術習得
10回目	苦情の種類 処理方法 基本的な苦情処理が出来るようになる
11回目	アメリカンブレックファースト一連のサービス流れを把握出来るようになる
12回目	朝食の流れと基本的なサービス技術を習得
13回目	朝食の流れと基本的なサービス技術を習得 パートⅡ
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
日本ホテル教育センター『レストラン業務の基礎』	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	エアライン基礎Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
航空業界について詳しく知ることができる。月刊エアステージを用いて、知識を深めていく。							
【到達目標】							
航空業界の職業に従事する上で、必須となる知識を習得する。業界の最新情報を自ら習得し、まとめ、発表する力を身につけることができる。業界用語を知ることにより、面接やディスカッションにも活かすことができる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 今後行われる講義、試験規定を知ることができる
2回目	航空会社の違いを理解することができる
3回目	CAについて詳しく知ることができる
4回目	航空機の基本構造を知ることができる
5回目	[伊丹空港]空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
6回目	[伊丹空港]空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
7回目	自分自身に合った航空会社や業種を知ることができる
8回目	コロナ禍が航空業界にもたらした影響を知ることができる
9回目	3レターの知識を得ることができる、CAストーリーの作成
10回目	グランドスタッフ・CAとのチームワークについて知ることができる【CA特別講義】
11回目	航空整備士や管制官など航空業界の様々な職業、CAとのチームワークについて知ることができる
12回目	航空業界の専門用語を学ぶことができる
13回目	[特別講義]航空会社の経営上の特徴、その他業界との違いを理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	エアライン接客Ⅰ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
バーにおいて必要な技術・知識をカクテル実習をメインに学習すると共に、ホテルバーマンとしての立ち振る舞いや、ホスピタリティを学ぶ事を目的とする。							
【到達目標】							
カクテル調合技術や基本的なお酒の知識を習得すると共にオリジナルノンアルコールカクテル創作とそのプレゼンテーションを習得する事を目標とする。							

回数	
1回目	オリエンテーション 前期の授業内容を理解できる。試験内容を理解できるようになる。授業を受けるにあたっての心構えや身だしなみを整えることの意味を理解できるようになる。身だしなみの整え方が分かるようになる。
2回目	①身だしなみのチェック ②立ち居振る舞い 航空業界においての立ち居振る舞いの重要性を理解できるようになる。きれいな立ち姿と笑顔ができるようになる。③自己エピソード発表導入 次回からの発表内容を理解できるようになる。
3回目	①立ち居振る舞い きれいなウォーキング、お辞儀ができるようになる。②自己エピソード発表
4回目	メイクレッスン メイクアップ講師による授業 航空業界に合うメイクを理解し、実践できるようになる。
5回目	①言葉遣い 正しい日本語の使い方を理解できるようになる。②ディスカッション導入 エアライン受験におけるディスカッションの重要性を理解できるようになる。③自己エピソード発表
6回目	①言葉遣い 接客における言葉遣いを理解できるようになる。②ディスカッション初回 ディスカッションの進め方が理解できるようになる。③自己エピソード発表
7回目	①言葉遣い 正しい日本語の小テスト②接客における言葉遣いをロールプレイで実践できるようになる。③ディスカッション二回目④自己エピソード発表
8回目	①アナウンス導入 アナウンスの重要性について理解できるようになる。②ビジネスマナー 基本的なマナーについて理解できるようになる。③自己エピソード発表
9回目	①アナウンストレーニング②ビジネスマナー 基本的なマナーについて理解できるようになる。③自己エピソード発表
10回目	①アナウンストレーニング②自己分析導入 エアライン受験における自己分析の重要性を理解できるようになる。③自己エピソード発表
11回目	①アナウンストレーニング②自己分析 自己分析シートを使い、自分の特性に気が付けるようになる。③ディスカッション三回目④自己エピソード発表
12回目	①自己分析 自己分析シートを使い、過去の自分を振り返ることができるようになる。②空港見学のための立ち居振る舞い・マナー復習と見学についてのポイント確認③自己エピソード発表
13回目	①正しい言葉遣いで空港見学についての感想を発表できるようになる。②ディスカッション四回目③試験項目についての確認
14回目	理解度チェック／前期の復習と後期に向けての心構えを確認できる
15回目	KIX空港見学：グランドスタッフの業務内容とホスピタリティを学ぶ
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Air Stage	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	トラベル基礎Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
国内および世界の地理を、「なぜそこが観光地になったのか」という視点から学習します。地形、気候、歴史、文化、産業が、どのように旅行者の心を惹きつける観光資源となり、旅の体験を形成しているかを分析します。地図の読み方から始め、具体的な観光事例を豊富に取り入れ、受講後に学生自身が「旅のプランを立ててみたくなる」レベルの基礎知識と感性を身につけることを目指します。							
【到達目標】							
・地理的知識の活用: 観光地を構成する自然・人文・歴史の各要素を関連づけて説明できるようになる。 ・地図と情報の理解: 地図記号や地理情報を正確に読み取り、旅行の経路選択や危険予測に応用できるようになる。 ・地域分析力: 日本の主要な地域や世界の観光地域について、その気候、景観、文化が旅に与える影響を論理的に説明できる。 ・旅の企画基礎: 習得した地理情報を基に、テーマ性のある旅のアイデアを具体的に提案できるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション フィールドワークを通じて旅行業の仕事内容、必要な知識の概要を理解できる
2回目	旅の基本ツール: 地図と地理情報システムの読み方☑ 地図の種類と用途(地形図、海図、道路図)。地図記号と距離・方位の測定。GISの観光分野での利用を学ぶ
3回目	日本列島の成立と多様な景観☑ 日本の地形・地質と温泉や景勝地の関係。火山、カルスト地形、リアス式海岸などを学ぶ
4回目	気候と旅のベストシーズン☑ 日本の気候区分(太平洋側、日本海側など)と、それに適した服装、旅の目的(雪まつり、紅葉、避暑)の計画について学ぶ
5回目	旅の動脈: 交通地理の基礎☑ 鉄道、高速道路、空港、港湾の結節点。旅行者の流れと交通網の発達の関係性を学ぶ
6回目	「水の旅」: 河川と海岸線の魅力を探る 河川や運河を利用した舟旅。海岸線の景観(砂浜、岩礁、干潟)と海洋資源、海辺のレジャーについて学ぶ
7回目	歴史が作った旅の道: 街道と宿場町☑ 街道、巡礼路、宿場町の機能と現代の観光。文化財と歴史的風致維持を学ぶ
8回目	地域観光の核: 温泉と宿泊地の地理☑ 火山帯と温泉の関係、温泉街の形成。宿泊施設の地理的立地(駅前、リゾート地、山間)について学ぶ
9回目	日本の地域別観光分析(1): 北海道・東北の自然と食☑ 寒冷地、多雪地帯特有の生活文化と観光(雪まつり、農業)。海産物と冷涼な気候が育む食文化について学ぶ
10回目	日本の地域別観光分析(2): 関東・中部の産業と都市☑ 大都市圏の機能とMICE。製造業と産業観光。山岳地帯の観光と交通網の整備を学ぶ
11回目	日本の地域別観光分析(3): 近畿・中国・四国の文化と島々☑ 古都(京都・奈良)の成り立ちと文化財。瀬戸内海の島嶼観光と橋の役割を学ぶ
12回目	日本の地域別観光分析(4): 九州・沖縄の異国情緒と海洋☑ 歴史的な交易による文化の融合。火山と温泉。温暖な気候とリゾート、海洋観光について学ぶ
13回目	旅の未来: 世界に目を向ける☑ 世界の気候帯と人々の暮らし・文化。異なる環境下での旅の注意点(熱帯、乾燥帯など)を学ぶ
14回目	旅の企画演習: 地理情報からのテーマ設定☑ 習得した地理知識を活かし、特定の地域やテーマに特化した旅のアイデアを考案する。
15回目	期間案のフィードバック、前期の総復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	トラベル実務Ⅰ	授業 形態	講義	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
観光産業の全体像と旅行業の基本構造、旅行商品の種類と特性を理解する。							
【到達目標】							
旅行業法の概要と消費者に提供すべき安全管理・危機管理の基礎知識を説明できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 観光の概念と歴史の変遷を理解できる
2回目	観光産業の構成要素と広がり（宿泊、交通、飲食、MICEなど）を学ぶ
3回目	日本の旅行業の役割と歴史、旅行会社の分類と機能を学ぶ
4回目	旅行業法の目的と概要、登録制度について基礎的な事項を理解できる
5回目	旅行会社の組織と業務、カウンタースタッフの役割をロールプレイを通じて学ぶ
6回目	募集型企画旅行の仕組みと特徴を理解できる
7回目	受注型企画旅行と手配旅行の仕組みと特徴を理解できる
8回目	約款の基礎知識と重要性（募集型企画旅行約款）を理解できる
9回目	旅行商品の構成要素と価格設定の基礎を理解できる
10回目	運輸機関の基礎知識（航空、鉄道、バス、船舶）を学び、観光業との関係を論じることができる
11回目	宿泊施設の基礎知識（ホテル、旅館、その他）を学ぶ
12回目	安全管理の重要性：旅行会社の責務と取り組みを理解できる
13回目	危機管理の基礎：自然災害・事故・感染症への対応を学び、理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック（欠席者）／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	Global Communication I	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 [WH-question]を使って相手の性格について尋ねる会話を練習する
2回目	U1.2 「間接疑問文」を使って、人に質問をする、また質問に答える練習をする
3回目	U1.3 自己紹介と他己紹介に関する会話を練習する
4回目	U1.4 誰かと知り合いになるためのメールを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「良いリーダーになるために必要なこと」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1 現在進行形を使って持ち物について話す
7回目	U2.2 現在完了形を使って持ち物やその機能などについて話す
8回目	U2.3 聞き返しの表現や話題を変える際の表現を使ってディスカッションをする
9回目	U2.4 欲しいものについての広告を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「出かける時の持ち物について」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 冠詞に注意しながら、自分の町について尋ねる、また質問に答える練習をする
12回目	U3.2 [would/could/should]を使って、他の場所への生き方について話す
13回目	U3.3 建物内の道案内の場面での会話を練習する
14回目	U3.4 求人に対して志望動機を書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%/実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	
	英文法&英会話 I	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 性格を表す単語を学ぶ [WH-question]を使った表現を学ぶ
2回目	U1.2 個人の情報(ライフステージ)に関する表現を学ぶ 間接疑問文を学ぶ
3回目	U1.3 新しい情報を伝える時の文中のストレス(発音)を学ぶ 自己紹介、他己紹介の表現を学ぶ
4回目	U1.4 段落を意識したメールの読み方、書き方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 持ち物や持ち物に関連する表現を学ぶ [ever/never/for/since]を用いた現在完了形を学ぶ
7回目	U2.2 スマホやPCの機能に関する表現を学ぶ [already/yet]を用いた現在完了形を学ぶ
8回目	U2.3 語頭の/t/の発音を学ぶ 話題を変える際の表現を学ぶ、簡単な聞き返し(興味を示す)の表現を学ぶ
9回目	U2.4 ネット広告の読み方、書き方を学ぶ 代名詞としてのoneの使い方を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 街中の橋や建物などの特徴に関する単語を学ぶ 冠詞について学ぶ
12回目	U3.2 公共交通機関に関する単語を学ぶ 助動詞[would/could/should]を使った提案の表現を学ぶ
13回目	U3.3 語頭の子音連結(発音)を学ぶ 道順を尋ねる、また教える際の表現を学ぶ、理解を示すための繰り返し(言い直し)の表現を学ぶ
14回目	U3.4 求人広告を読み、志望動機の書き方を学ぶ 大文字やピリオドなど、基本的なルールを学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	

Evolve

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・ キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	キャリアプログラムⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、花屋にて店長を務め、ウェディングブーケや結婚式場での装飾を行う。その後、専門学校のフラワーコース担任として10年勤務。							
【授業の学習内容】							
専門学生が社会人として必要なキャリア形成力と学生生活の心構えを身につける。							
【到達目標】							
自己理解、キャリア設計、コミュニケーション力、社会人基礎力を養う。							

回数	授業計画・内容
1回目	授業の目的、キャリアプランの重要性、ホスピタリティ業界におけるキャリアの多様性を理解する
2回目	味チェックリストや適性検査の実施、好きなこと・得意なことの分析、結果の解釈を広げる
3回目	仕事選びの軸(給与、環境、成長性など)の明確化、キャリアアンカーの検討を行う
4回目	「ガクチカ」やアルバイト経験など、過去の出来事から得られた強み・弱みを抽出する
5回目	ホテル、エアライン、旅行、ブライダルなど、各業界の特徴と市場の動向を調べる
6回目	フロント、料飲、営業、企画など主要部門の業務内容、支配人へのキャリアを検討する
7回目	CA、GS、予約、グランドハンドリングなど主要職種の業務内容と、採用動向を確認できる
8回目	テーマパーク、鉄道、メディカルツーリズムなど、専門学校での学びが活かせる関連業界について理解できる
9回目	企業HP、就職情報サイト、四季報、OB/OG訪問など、情報収集ツールの使い方を理解する
10回目	企業文化、フィロソフィーの比較、採用メッセージから求められる資質を読み解く
11回目	就活年間スケジュール、インターンシップの意義と参加の仕方を理解する
12回目	英語(TOEICなど)、秘書検定、サービス接客検定など、目標とする資格の設定をする
13回目	自己分析と業界研究の結果に基づき、「なりたい自分」と2年生の具体的な目標を言語化①
14回目	自己分析と業界研究の結果に基づき、「なりたい自分」と2年生の具体的な目標を言語化②
15回目	授業全体の振り返り、業界・職種知識の最終確認を行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・ キャリア教育	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	新妻 伸枝
	ウォーキングⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
大学卒業後、株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。 その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。 一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。							
【授業の学習内容】							
後期は前期に引き続きフラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまうコツを具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形で表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。							
【到達目標】							
就職活動や冠婚葬祭のシーンにおいて必要不可欠なヒールウォーキングを美しく正しくできるようになる。 日常生活での美しい所作も学び、ものを大切に扱う心も育てられるようになる。 姿勢・フラットウォーキング・ヒールウォーキング・所作トータルでできるようになり、即戦力のある立ち居振る舞いを身につけられるようになる。							

回数	授業計画・内容
1回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
2回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
3回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
4回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
5回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようになる。
6回目	前期に続き姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではお辞儀3パターンが理解できるようになる。ラストアイコンタクトを理解できるようになる。(応用編として就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンを持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
7回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵なお笑顔の作り方」をできるようになる。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようになる。(手鏡ご持参ください。)
8回目	前期に続き姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕草を綺麗にできるようになる。
9回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学びできるようになる。
10回目	姿勢の復習。ヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようになる。(企業訪問した際に恥ずかしくない裏表のマナーを理解してできるようになる。)
11回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
12回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
13回目	姿勢の復習。フラットウォーキング→ヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングをできるようになる。
14回目	期末の試験を行う
15回目	授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
・パンプス・動きやすい服装・飲み物	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	林 日止美
	ビジネスコンピューティングⅡ	授業 形態	演習	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
職業人として不可欠なICTの可能性を知り、様々な場面でPCを使いこなす事が出来るようになる。 ITリテラシーを学び、安心・安全な環境を作り、ホスピタリティ業界でも大切なメールマナーなどを学ぶ。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の概要の説明 プレゼンテーションの基本を理解して、効果的なプレゼンテーション資料を作成することができるようになる。						
2回目	パワーポイントの基本操作 スライドの操作を習得し、スライドの管理ができるようになる						
3回目	スライド作成の基本操作 スライドのサイズ変更、テキストの入力、スライドに名前や日付を入れたり、スライドの複製やコピーができるようになる						
4回目	スライド作成の基本操作 スライドマスター、配色、フォント、パターンの設定をして、スライドの表現ができるようになる						
5回目	スライドの応用操作 画像や図をスライドに挿入したり、画像処理ができるようになる						
6回目	表の挿入 行や列の挿入、削除、列幅や行の高さの調整など、テーマに沿った表を作成することができるようになる						
7回目	グラフの作成 グラフの種類とそれぞれの特徴を学び、必要なグラフを作成することが作成することができるようになる						
8回目	作図機能を使う スライドにデザインをつけたり、強調したい部分を明確に表現できるようになる						
9回目	アニメーションの設定 アニメーション機能を理解して、プレゼンテーションで使うことができるようになる						
10回目	センスのいいスライドの作成 いろんな機能をすかってスライドに同時のデザインすることができるようになる						
11回目	課題 テーマに沿ったスライドを作成						
12回目	CANVAの基本操作 CANVAを使ってスライドを作成できるようになる						
13回目	CANVAの応用 パワーポイントとCANVAのそれぞれの強みを活かしたスライドを作成できるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技・筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田中 久美子
	アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ検定	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
本当の“ホスピタリティ”の意味と価値を学び、自分らしい「ホスピタリティ」ができる人になることを目指します							
【到達目標】							
本当の“ホスピタリティ”を理解・実践し、検定合格を目指します。							

回数	授業計画・内容
1回目	授業について
2回目	自分のホスピタリティに気づく
3回目	第1章 日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性
4回目	第2章 ホスピタリティの歴史と文化 についてホスピタリティはどのような考えから来たのかを学ぶことができる。
5回目	第3章 サービスとホスピタリティの語源 について、ホスピタリティという言葉の発端は何なのかを学ぶことができる。
6回目	第2章 ホスピタリティの歴史と文化 についてホスピタリティはどのような考えから来たのかを学ぶことができる。
7回目	第3章 サービスとホスピタリティの語源 について、ホスピタリティという言葉の発端は何なのかを学ぶことができる。
8回目	第4章 ホスピタリティの定義 について、「サービス」と「ホスピタリティ」の違いを学ぶことができる。
9回目	第5章 ホスピタリティの5領域 について、人間の「欲求」とは何かを学ぶことができる。
10回目	第5章 ホスピタリティの5領域 について、人間の「欲求」とは何かを学ぶことができる。
11回目	第6章 組織と顧客のホスピタリティ について、ホスピタリティの出発点は何かに気づくことができる。
12回目	第7章 組織と社員(従業員)のホスピタリティ についてグループワークを行いながら考えることができる。
13回目	第8章 ホスピタリティの実践 についてグループワークを行いながら考えることができる。
14回目	期末の試験を行う
15回目	授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホスピタリティ・コーディネータ教本 (日本ホスピタリティ推進協会)	

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	山口 恭裕
	マーケティングⅡ	授業 形態	演習	単位数	2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	堤谷 孝人
	Azure AI900	授業 形態	講義	単位数	1	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
取材記者、編集者、デザイナー、カメラマンの経歴を生かし、PC・IT教育に長年携わる。							
【授業の学習内容】							
AI の基礎知識を習得し、ホスピタリティ業界での応用可能性を理解する。 Microsoft Azure AI サービスの概要、機能、利用ケースを習得する。							
【到達目標】							
AI-900 試験の出題範囲を網羅的に学習し、合格を目指す。							

回数	
1回目	AI、機械学習(ML)、ディープラーニング(DL)の基本定義。ホスピタリティ分野でのAI活用例(チャットボット、レコメンド)。責任あるAIの原則を学ぶ。
2回目	教師あり学習、教師なし学習、強化学習の違い。回帰と分類。モデルのトレーニングと評価の基本プロセスを学ぶ。
3回目	Azure の基本とAzure AI サービスの全体像。Cognitive Services、Azure Machine Learning の役割と位置づけを学ぶ。
4回目	NLPの定義。主要タスク(テキスト分析、音声認識)。ホスピタリティでの活用(顧客レビュー分析)を学ぶ。
5回目	Text Analytics (感情分析、キーフレーズ抽出、言語検出) の機能と利用を学ぶ。
6回目	Translator (翻訳) および Language Understanding (LUIS) の基本。ホスピタリティでの多言語対応を学ぶ。
7回目	コンピュータービジョンの定義と主要タスク(画像分類、物体検出、顔認識)を学ぶ。
8回目	Computer Vision (画像分析、光学文字認識/OCR) の機能と利用を学ぶ。
9回目	Face (顔検出、顔認識) と Custom Vision の基本を学ぶ。
10回目	Speech to Text、Text to Speech、Speech Translation の基本。音声ボットとホスピタリティでの利用を学ぶ。
11回目	Azure Bot Service と QnA Maker/Custom Question Answering の基本。FAQボットの仕組みを学ぶ。
12回目	Azure ML の概要。モデル作成のライフサイクル。自動機械学習 (AutoML) の概念。ノーコード/ローコード ML の利点を学ぶ。
13回目	過去問・模擬問題による試験形式の確認と実力テスト。弱点分野の特定を学ぶ。
14回目	理解度チェック／模擬試験
15回目	最後の模擬試験と全体の総仕上げ。試験直前の心構えと最終質疑応答を行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	

講師が用意したレジュメを毎回配布する

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修選択	必修	年次	2	担当教員	
	キャリアプログラムⅢ	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受け入れ、肯定する) 人に伝わる自己表現ができるようになる 人の話を聞く姿勢が理解できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	キャリアプログラムの目的、学校ルールを再確認する
2回目	目標・目的・手段の違いを知り、卒業までの目標を改めて立てる
3回目	専門式場見学:企業について深く理解する
4回目	『聞き手上手』『話し上手』の技法を知ることができる
5回目	相手に『自分らしさ』を伝えることができるようになる
6回目	どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることが出来るのか傾聴力を身につける
7回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る
8回目	ポートフォリオの活用方法を理解し、作成する
9回目	これまでの人生を振り返り、ライフチャートの作成をする
10回目	ドレスショップ見学:企業について深く理解する
11回目	認知特性を知り、自分の学習タイプを知って、対策方法を見つける
12回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る
13回目	学んだ伝え方を活かして自己紹介文を考える
14回目	自己紹介を、一人1～2分程度で発表する
15回目	前期授業の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	企業プロジェクトⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
スタートアップ企業の立ち上げ、経営実務、マーケティング実務の経験を有する。現在はフリーランスとして主に企業への戦略立案支援、社会人・学生への思考系及びマーケティング系の研修講師を行う。							
【授業の学習内容】							
MiaVia様の企業課題にむけて取り組む。							
【到達目標】							
1年生の授業「マーケティングリサーチ」の手法を活かして実現可能性の高い企画提案を行う。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション前準備：チーム確認・MiaVia会場調べ・オリエンテーション時の質疑応答の内容検討						
2回目	オリエンテーション@MiaVia						
3回目	グループごとに気になったハード面の洗い出しおよび、好感の持てるハード面・イメージの選定						
4回目	どのような会場（ハード面）を提案するか、キーワード・テーマを探る						
5回目	決定したテーマの理由および根拠、その効果を探る①						
6回目	決定したテーマの理由および根拠、その効果を探る②						
7回目	中間プレゼンに向けてPPT制作・コメント準備						
8回目	中間プレゼンに向けてPPT仕上げ・コメント確認およびリハーサル						
9回目	中間プレゼンテーション@オンライン						
10回目	フィードバックを元にグループごとに方向性、内容の再検討						
11回目	グループごとにデータ調査・分析②						
12回目	グループごとにデータ調査・分析③						
13回目	最終プレゼンテーションに向け、PPT仕上げ、コメント確認						
14回目	最終プレゼンテーションに向けリハーサル						
15回目	最終プレゼンテーション						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ教養Ⅰ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
五感ワークデザイン主催・代表:メーカーでマーチャンダイザーとしてリアルとオンラインのマーケティングや人間行動心理学に基づく旗艦店設計を実施後、ブランディングデザイン会社でコーポレートブランディングに従事。現在は企業の課題解決プログラムを設計(リーダーシップコーチング・成果を出すチーム)・企業ブランディング(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス設定とコンセプト設定)・パーソナルブランディングやセルフマネジメントを実施。アントレプレナーシッププログラム(ビジネスモデル)を社会人・大学生・中高生対象に企業や学校と連携して実施。							
【授業の学習内容】							
・インバウンド観光客と接する上での基礎教養として、日本の歴史を学ぶ。 ・日本の近現代史の知識から、現在の日本と世界との関係を理解する。 ・学び方を学び、職業人としての生き方を学ぶ。							
【到達目標】							
・日本史の基礎知識を身につける。 ・世界の中の日本という観点で、日本と他の国や地域との交流の歴史について一定の理解をする。 ・自分だからこそ語れる日本史及び日本文化についての得意素材を獲得する。							

回数	
1回目	①オリエンテーションとして、忍者の歴史に触れる。 ②より面白い日本史講義になるために学生と共に考える。 ③結果から原因を考える川下から攻める日本史攻略概説。 ①～③をとおり、何をどのように学びどのような力を身につけるか、つけなければならないのかを理解する。
2回目	①日本の現代史を徹底的に語りつくしてみよう。②10年をひとくくりとしてで現代史を考えてみよう。③外国から見た日本とは。 ④ ①～③を通し「なぜ？」を大切にする態度を育成する。
3回目	①明治維新から終戦までの近代という時代。②戦後から今までの現代と近代を比較してみよう。 ③外国と日本の関係を考える。 ④ ①～③をふまえ、あるべきおもてなしの態度を考える。
4回目	①戦国時代から江戸時代のいわゆる近世。②近世と近代の大きな違い。③近世と現代比較。 ④世界の中の当時の日本という視点で考えてみる。
5回目	①中世という時代。平安後期から鎌倉時代、室町時代。②中世と近世の違い。
6回目	①古代。古墳時代から飛鳥時代、奈良時代、平安時代まで。②古代と中世の決定的な違い。
7回目	①日本の先史時代の概略 ②日本の歴史書について 理解し、論じることができる。
8回目	①大阪の歴史 ②難波の堀江 ③新大阪 それぞれの歴史を理解し、論じることができる。
9回目	①サムライというもの ②日本刀 について理解し、論じることができる。
10回目	①司馬遼太郎先生という歴史作家 ②街道を行ってみた ③研究課題の設定
11回目	日本文化としての歌舞伎について理解し、論じることができる。
12回目	日本文化としての能、狂言について理解し、論じることができる。
13回目	有名な寺社仏閣について理解し、論じることができる。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェックの解説／学期末の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】
講師が用意したレジュメを使用

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	TOEIC I	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
TOEIC® L&Rテストの出題形式と時間配分を完全に理解し、効率的な解答戦略を習得すること。ビジネス・日常英語の語彙力と文法力を強化し、実力に裏打ちされたスコアアップを実現することを目指す。							
【到達目標】							
TOEIC® L&Rテスト全7パートの出題傾向と解答戦略を完全に把握し、実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション TOEICの構成(L&R全7パート)、目標スコア設定、学習スケジュールの確認
2回目	頻出する動詞(状態、動作)、場所を表す前置詞、写真の人・物の焦点の見極め方を学ぶ
3回目	5W1H、Yes/No疑問文、付加疑問文など、疑問詞の種類と応答パターン。間接的な応答の聞き取りを学ぶ
4回目	アメリカ英語とイギリス英語の発音・アクセントの違い。リエゾン(音の繋がり)とリダクション(音の脱落)を学ぶ
5回目	問題と選択肢の先読みテクニック。会話の流れと話者の意図を読み取る集中カトレーニング
6回目	職場、交通、会議、カスタマーサービスなど、会話の典型的なパターンと質問への結びつきを学ぶ
7回目	模擬試験①
8回目	天気予報、広告、留守番電話メッセージなど、具体的な情報や次にとるべき行動を示す部分の聞き取りを学ぶ
9回目	スコアに直結するビジネスシーンで多用される動詞・名詞・句動詞の暗記と例文確認
10回目	契約、投資、発注、出荷など、専門性の高い語彙の習得
11回目	模擬試験②
12回目	時間を意識したリスニングセクション全パートの模擬演習。聞き逃しを防ぐ戦略の確認
13回目	現在完了、過去完了、未来完了など、複雑な時制の正確な選択。動詞の形(受動態、分詞)を学ぶ
14回目	模擬試験③
15回目	制限時間内でリスニングセクション(Part 1-4)を実施し、前半の学習成果を確認する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	マナー・プロトコール検定2級	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルージブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、グローバル化する社会で習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」など目に見える「形」として表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前期授業終了後に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、合格する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション:授業の目的、進め方等を理解できる。また、マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる 序章 マナーとは何か:慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義、日本の礼儀・作法の成り立ちについて説明できるようになる						
2回目	第1章 マナーの歴史と意味:西洋のマナー、エチケットの成り立ち、アジアのマナーの特徴について説明できるようになる 確認テスト①:序章・第1章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第2章 国際人としてのプロトコール:プロトコールの原則、具体的な席次例について説明できるようになる						
3回目	第2章 国際人としてのプロトコール:社交の場でのコミュニケーション(パーティの種類、パーティのマナー)、握手と紹介、外国人への贈り物について、説明できるようになる						
4回目	第2章 国際人としてのプロトコール:国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーションについて説明できるようになる 確認テスト②:第2章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(第一印象・挨拶・お辞儀・表情・身だしなみ・立ち居振る舞い)について説明できるようになる						
5回目	第3章 社会人に必要なマナー:好印象を与えるコミュニケーションとは(言葉遣い・聴き方の基本・話し方の基本)、礼装の基準について説明できるようになる						
6回目	第3章 社会人に必要なマナー:喜ばれる贈答・手紙のマナーについて説明できるようになる 確認テスト③:第3章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 定期テスト①:序章～第3章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
7回目	定期テスト①の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネスマナーの必要性、社会人としての心構え、名刺の扱い方、電話応対、トラブル対応、来客応対について説明できるようになる						
8回目	第4章 ビジネスシーンのマナー:ビジネス文書のマナーについて説明できるようになる 確認テスト④:第4章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる 第5章 食事のマナー:食事の作法の基本、和食のマナー、和室の作法について説明できるようになる						
9回目	第5章 食事のマナー:、西洋料理のマナー、中国料理・各国料理のマナーについて説明できるようになる 確認テスト⑤:第5章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト②:第4章～第5章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
10回目	定期テスト②の振り返りを行うことで自身の現状を明確に把握できる 第7章 「冠」のしきたり:冠婚葬祭とは、日本の主な通過儀礼(人生の節目のしきたり、出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、年祝い、その他のお祝い事)について説明できるようになる						
11回目	確認テスト⑥:第7章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第8章 「婚」のしきたり:結婚の変遷、結婚式のマナー(挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー)について説明できるようになる 第9章 「葬」のしきたり:仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる						
12回目	第9章 「葬」のしきたり:葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 確認テスト⑦:第8・9章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 第10章 「祭」のしきたり:1～2月の行事について説明できるようになる						
13回目	第10章 「祭」のしきたり:3～12月の行事について説明できるようになる 確認テスト⑧:第10章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 定期テスト③:第7章～10章を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題が明確になる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
マナー＆プロトコールの基礎知識、マナー・プロトコール検定2級・3級問題集、テスト等の講師配布資料							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	サービス介助士	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルージョンのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ産業に従事するプロとして必須となる、高齢者や障がいを持つお客様への適切な接客と介助技術を習得する。							
【到達目標】							
サービス介助士資格取得を目指す。							
回数	授業計画・内容						
1回目	サービス介助士の理念と役割、ホスピタリティ産業における介助の重要性、バリアフリーとユニバーサルデザインの概念を理解する。						
2回目	高齢者の身体的・精神的な変化と特徴、心理的サポート、共感と傾聴の接客技術を身につける。						
3回目	視覚障がいの種類と程度、白杖の役割、街中や施設における危険、声かけの基本を理解する。						
4回目	歩行介助の基本(手引き)、階段の上り下り、椅子への誘導、情報伝達の実技トレーニング。						
5回目	聴覚障がいの種類、コミュニケーション方法(筆談、ジェスチャー、簡単な手話)、情報保障の提供を理解する。						
6回目	車椅子の基本構造と種類、操作の注意点、介助の心構えを身につける						
7回目	車椅子の展開・格納、基本的な押し方、方向転換、段差の乗り越え(前輪上げ)を習得する。						
8回目	急な坂道、狭い場所での操作、ドアの開閉、公共交通機関利用時の介助を習得する。						
9回目	内部障がい(心臓、腎臓など)、精神障がい、発達障がいの特徴と、適切な配慮。ヘルプマークの意義を理解する。						
10回目	杖や補助具を使用する方への対応、手荷物の介助、着替えや食事のサポートの基礎を学ぶ。						
11回目	介助中に体調不良が発生した場合の対応、AEDや初期救護の基礎、安全な環境づくりを理解する。						
12回目	接客心理、介助の理念、関連法規(バリアフリー法、障害者差別解消法など)の確認を行う。						
13回目	各種障がい、高齢者理解に関する知識問題の総チェックと解説を行う。						
14回目	理解度チェック・習熟度を確認する						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
サービス介助士資格取得講座テキスト							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論 電話応対	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
		授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
業種、業界問わず、社会人になくてはならないビジネススキルの一つに電話応対スキルがある。取引先やお客様との電話応対を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話応対の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。実践型授業に積極的に参加していただくことにより、自身の電話応対に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成に役立てていただける。							
【到達目標】							
・電話応対の重要性を理解し、好印象を与える電話応対が実践できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話応対知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーションにより、授業の目的、進め方等を理解できる 基本マナーについて正しい知識を持つとともに、説明できるようになる 口の開閉練習、基本の五十音練習、滑舌強化練習を通じて、音声表現の重要性を知り、実践できるようになる
2回目	オープニング、取次ぎのマナーについて正しい知識を持つとともに、練習を通じて、オープニング、取次ぎについて実践できるようになる 発表①の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
3回目	発表①の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 間合い・スピード改善練習、顔の表情・姿勢を意識した音声練習、抑揚強化練習、際立たせ(プロミネンス)強化練習、電話応対でよく使うフレーズ強化練習、口癖・話し癖改善ワークを通じて、音声表現の重要性を知り、実践できるようになる
4回目	言葉遣い(1)について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表②の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
5回目	発表②の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 言葉遣い(2)について正しい知識を持ち、実践できるようになる
6回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーション(1)について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表③の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
7回目	発表③の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーション(2)について正しい知識を持ち、実践できるようになる
8回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表④の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
9回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム応対について正しい知識を持ち、実践できるようになる 発表⑤の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
10回目	発表⑤の発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 就職活動時の電話応対について正しい知識を持ち、実践できるようになる
11回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑥の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
12回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑦の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
13回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑧の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
14回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 発表⑨の準備(設定の理解・スクリプト作成・練習)および発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
15回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 総合発表をすることで、電話応対スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師が準備したレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ実践	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
国家資格キャリアコンサルタント。自己分析・他者理解・相互理解による関係性構築力を目的とした能力開発のための研修やセミナーを行う。自分らしさを仕事に活かすことを目的とした就活生のための自己分析シート作成セミナーを実施している。人間関係促進ツールのためのカラータイプ®理論をテーマに日本マーケティング学会に共論文3本あり。							
【授業の学習内容】							
地域社会やイベントでのボランティアワークに積極的に参加することを通じて、ホスピタリティ産業に共通する実践的なスキルとプロフェッショナルなマインドを習得する							
【到達目標】							
ホスピタリティの具現化: 見返りを求めないサービスの本質を理解し、相手のニーズを先読みして自発的な行動を通じてホスピタリティを体現できる。 状況対応力と問題解決: 予測不可能なボランティアの現場で発生する様々な状況や突発的な問題に対し、冷静かつ適切に対応できる。 専門分野を超えた協働: 異なる専門(ホテル、エアライン、観光)を持つチームメンバーと効果的に連携し、目標を達成できる。 体験の言語化: ボランティア経験から得た気づきやスキルを論理的に分析・言語化し、自身のキャリアプランに結びつけられる。							

回数	
1回目	ボランティア活動先の選定を行う。ホスピタリティの定義(マインドとスキル)、「無償のサービス」の価値を学ぶ
2回目	それぞれの専門性を理解し、活動チームを結成。活動計画の立案とタスクの分担ができる
3回目	ボランティア実践ワーク①
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	実践ワークの振り返りを行い、次回ワークの準備を行う
9回目	ボランティア実践ワーク②
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	プレゼンテーション:実践ワークを通じて学んだこと、キャリアに活かしたい点をまとめて発表する
15回目	フィードバック、前期の振り返りを行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	宿泊マネジメント	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
宿泊マネジメントの方法論、具体的な事例を挙げて解説し、マネジメントを習得するための基礎を学習する。 またホテル情勢やトレンドについても、例を挙げて説明する。							
【到達目標】							
実際のホテル現場レベルの具体例を学ぶことにより、現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して 現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来るようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション:Rooms Divisionの組織と業務。 経営的観点から売上や経費について具体的な内容を理解することができるようになる
2回目	Room Reservationのマネジメントを理解できるようになる。(業務オペレーション管理、売上・収益管理、チームマネジメント、顧客対応、システムテクノロジー管理など)
3回目	Room Reservationのマネジメントを理解できるようになる。(業務オペレーション管理、売上・収益管理、チームマネジメント、顧客対応、システムテクノロジー管理など)
4回目	Front Deskのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、収益管理、顧客満足度管理、システム・IT管理、コスト管理など)
5回目	Front Deskのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、収益管理、顧客満足度管理、システム・IT管理、コスト管理など)
6回目	Housekeepingのマネジメントを理解できるようになる。(スタッフ管理、清掃品質管理、コスト管理、衛生管理・安全管理、サステナビリティ、ゲストエクスペリエンス)
7回目	Uniformed Serviceののマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、サービス品質管理、設備・備品管理、コミュニケーション・連携など)
8回目	Telephone Operatorのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、人材管理、顧客対応の品質向上、業務効率化・DX化など)
9回目	Conciergeのマネジメントを理解できるようになる。(オペレーション管理、サービスの品質管理、予約・手配業務、情報管理・データ活用、ホテルブランドの向上など)
10回目	ホテルの情報システム： 宿泊部門の情報システムを理解できるようになる。
11回目	顧客満足度： ゲスト満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
12回目	従業員満足度： 従業員満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
13回目	Rooms Divisionのマネジメントを理解できるようになる。
14回目	前期試験
15回目	振り返り： 1. 前期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師がレジュメを準備する	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	料飲マネジメント	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
初めは、ホテルから外食産業・その他幅広いレストランに興味を持つように全般的な概要で机上での講義形式で行います。またサービス基本実践の演習で各自実務基礎を習得させます。最後に実技試験シミュレーションを行うことで、緊張感を持って楽しく生徒が授業に取り組めるように致します。							
【到達目標】							
レストランに関して興味を持ってもらうため、料理や飲み物・サービスなど幅広く 奥が深いことを認識してもらいます。次に実践演習で初心者者のサービス実技を体験。そして最終はレストランサービスに必要なスキル課題を明確にし、課題実技スキルを習得してもらうことを最終の目標に致します。							

回数	
1回目	今期の講義の進め方を理解し自身の目標を設定することができる。
2回目	前期までの学習到達度を確認し復習することにより課題を認識することができる
3回目	コーポレートガバナンス、コンプライアンス及び企業風土とは何かを理解することができる
4回目	料飲施設のアペレーションの基本とは何かを理解することができる
5回目	料飲施設のマネジメントの基本とは何かを理解することができる
6回目	品質管理、クオリティーコントロールとは何かを理解することができる
7回目	卸売市場見学により食品の流通を学ぶことができる(大阪中央卸売市場)
8回目	食品衛生と食中毒及び食物アレルギーについて知ることができる
9回目	危機管理、リスクマネジメントとは何かを理解することができる
10回目	スタンダードオペレーティングプロシージャー(SOP)とは何かを理解することができる
11回目	料飲施設の収益構造について基本的な仕組みを理解することができる
12回目	ホテルの労務管理について基本的な仕組みを理解することができる
13回目	料飲部門におけるリーダーシップについて考察することができる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成するレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン就職対策Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
エアライン業界(CA、GSなど)の就職活動を成功させるための基本的な知識、スケジュール、ツールの使い方を習得する。就職活動の土台作りを徹底的に行い、自信をもって次のステップ(面接・書類対策)に進める能力を養う。							
【到達目標】							
エアライン業界の採用スケジュール全体を把握し、自身の活動計画を立案できる。 自己分析を完了させ、自身の強みや職業観を明確に言語化できる。 志望企業を特定し、企業研究(企業理念、求める人物像)を深く掘り下げられる。							

回数	
1回目	授業の目的、CA/GS採用の特徴、就職活動の年間スケジュール（インターン、本選考の流れ）を確認できる。
2回目	モチベーショングラフ作成、過去の成功・失敗体験から得た教訓の抽出を行う。
3回目	自己PRの核となる資質、職業観（仕事選びの軸）の明確化、客室乗務員・地上職に求められる資質の確認を行う。
4回目	企業HP、採用サイト、SNS、ニュースなど、情報収集ツールの使い方と情報の信頼性判断ができる。
5回目	企業理念、ビジョン、沿革の調査。求める人物像を募集要項や採用メッセージから分析する。
6回目	日系（JAL/ANA）、LCC、外資系のサービス、路線、企業文化の比較を行う。
7回目	適性検査の全体概要、出題形式と対策の必要性。非言語分野の基礎（計算、推論の入門）を学ぶ。
8回目	言語分野の基礎（語彙、文法の確認）、出題頻度の高い用語の解説を行う。
9回目	性格検査の目的と評価基準、一貫性のある回答のための自己理解の深め方を理解する。
10回目	TOEICの位置づけと重要性、スコアアップのためのPart別学習法（リスニング編）を確認できる。
11回目	スコアアップのためのPart別学習法（リーディング編）、時間配分とテクニックを養う。
12回目	記入の基本ルール、学歴・職歴欄の書き方、写真の重要性、誤字脱字チェックの徹底を理解する。
13回目	訪問の目的とマナー、効果的な質問リストの作成。インターンシップの選考への影響を理解する。
14回目	これまでの自己分析の結果をまとめ、エアラインの職種にどう活かせるかをプレゼンテーションを行う。
15回目	授業の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	エアライン接客Ⅲ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
キャビンアテンダント(CA)およびグランドスタッフ(GS)として求められる、国際的な環境下での高度なビジネスマナー、プロトコール(国際儀礼)、そして顧客の期待を超えるホスピタリティの精神と技術を習得します。							
【到達目標】							
国際的なプロトコール(席次、贈答、会食)の基本を理解し、対応できるようになる							

回数	
1回目	サービスとホスピタリティの違い。顧客の期待を超えるとは何か。顧客体験の設計(カスタマージャーニー)ができる
2回目	国際的な挨拶、握手のマナー、名刺交換の儀礼。プロトコール(国際儀礼)の基本原則が理解できる
3回目	日本と欧米における席次の原則。航空機内、会議室、車両内での適切な席次の判断ができる
4回目	上級クラスのサービス哲学と設備の特徴。乗客への特別な配慮とサービスの目的を理解できる
5回目	顧客情報(搭乗履歴、嗜好)に基づいたパーソナルな接客の実践。事前準備と観察力を養う
6回目	洋食のフルコースサービス手順、カトラリーの扱い方。ワインやアルコール飲料の知識と提供マナーを身につける
7回目	CIQ(税関・入管・検疫)での支援。VIP、高齢者、要医療サポート乗客への個別対応を学ぶ
8回目	エアラインのドレスコードと清潔感の維持。表情、姿勢、立ち居振る舞いにおける美しさと信頼感を身につける
9回目	声のトーン、話すスピード、アクセントの調整。緊急時と通常時のアナウンスの使い分けができる
10回目	顧客の怒りの感情を鎮めるための心理的アプローチ。苦情の原因分析と顧客満足度回復(サービスリカバリー)ができる
11回目	酒気を帯びた乗客、体調不良の乗客、過度な要求をする乗客への冷静で毅然とした対応ができる
12回目	文化や言語の違いによる誤解やミスコミュニケーションの解消。トラブル時の報告義務と連携ができる
13回目	学生が乗客役と乗務員役に分かれ、パーソナライズされた上級クラスサービスを実践し、相互評価する
14回目	実技試験:空港チェックインから機内サービス、トラブル対応までを連続的に含む総合的な接客訓練を行う
15回目	学習成果の確認と、プロのエアラインスタッフとしての使命感とホスピタリティの再認識
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	トラベル実務Ⅲ	授業 形態	講義	時間数 単位数	120 8	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
外旅行業務に必要な国際地理、航空券、査証、出入国などの専門知識を学ぶ							
【到達目標】							
国際線の運賃計算の基礎と、海外旅行業務取扱管理者試験レベルの法規・実務の知識を応用できる。グローバルな視点から観光と文化を捉える力を養う。							

回数	
1回目	世界の地理と主要観光地（アジア・オセアニア）について学ぶ
2回目	世界の地理と主要観光地（ヨーロッパ）について学ぶ
3回目	世界の地理と主要観光地（南北アメリカ・アフリカ）について学ぶ
4回目	国際線：航空運賃の基礎：運賃構造と種類の知識を身につける
5回目	航空券の予約・発券システムの基礎（GDSの役割）を学ぶ
6回目	パスポートと査証（ビザ）の知識と取得実務の知識を身につける
7回目	海外の出入国手続きと税関・検疫について学ぶ 国際輸送の基礎：貨物と旅客の関連
8回目	外貨と為替の知識、両替の実務について学ぶ
9回目	海外旅行傷害保険の基礎と重要性を論じることができる
10回目	国際会議・インセンティブツアー（MICE）の実務基礎を学ぶ
11回目	国際観光と異文化理解：対応のポイントを理解できる
12回目	海外添乗実務の基礎：旅程管理とトラブル対応についてロールプレイを通じて学ぶ
13回目	海外旅行業務取扱管理者試験法規・約款の応用ができる
14回目	理解度チェック／模擬試験で知識の定着を繰り返し確認する
15回目	理解度チェック（欠席者）／授業の総復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Global CommunicationⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U 1.1 単純時制や進行時制を使って、個人の業績について話す
2回目	U 1.2 雇用者が求める人材について話す、個人や他人の業績を説明する
3回目	U1.3 自己紹介、他己紹介をする場面での会話を練習する
4回目	U1.4 ブログの投稿を読む、投稿にコメントを書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「面接のロールプレイ」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1 流行に関する表現を使って、トレンドについて話す
7回目	U2.2 接続詞を使って、料理の手順について話す
8回目	U2.3 提案をする際の表現を使って、社交の場や料理を注文する場面での会話を練習する
9回目	U2.4 調査についての結果を読む、また報告書を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「レストランの改善策を計画する」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 [too/enough]を使い、物事の「程度」について話す 時間とお金の相対的な重要性について話す
12回目	U3.2 比較級の表現を使って、物事の価値や価値を判断する基準について話す
13回目	U3.3 謝罪が必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 商品のレビューを読む、書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%/実技試験50%

【使用教科書・教材・参考書】
Evolve

授業シラバス

科目名	外国語Ⅰ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	英文法&英会話Ⅲ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 業績に関する表現を学ぶ 「単純時制」「進行時制」を学ぶ、復習する
2回目	U1.2 資質などを表す表現について、形容詞・名詞での表現を学ぶ 動作動詞・状態動詞の違いを学ぶ
3回目	U1.3 yの発音を学ぶ 人を紹介する時の表現、また人を紹介された時の受け答えの表現を学ぶ
4回目	U1.4 賛成・反対・より多くの情報を求める際の表現を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 流行に関する表現を学ぶ 条件節(If節)について学ぶ
7回目	U2.2 食材や調理法についての表現を学ぶ 接続詞(after,until,whenなど)を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 /aI/,/i/,/eI/の発音を学ぶ、提案をする、また提案を受ける・断る際の表現を学ぶ 提案を相手が受け入れた際の受領の表現を学ぶ
9回目	U2.4 消失する/t/の発音について学ぶ 調査報告に用いられる表現を学ぶ
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 時間とお金に関連する表現を学ぶ [too, enough] について学ぶ
12回目	U3.2 価格と価値に関連する表現を学ぶ 形容詞の比較級について学ぶ、復習する
13回目	U3.3 /s/で始まる語の発音を学ぶ 謝罪をする、謝罪を受ける際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 商品レビューに関するポジティブ、ネガティブな表現を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ ・キャリア教育	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	キャリアプログラムⅣ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
専門学校を卒業後、株式会社ひらまつにて、レストランウェディングにて勤務。その後、こども写真館・フォトウェディングのプランナー等を経験。老若男女幅広い年齢層のお客様へ接客を行う。							
【授業の学習内容】							
学校生活をより充実させる為の学校・クラスルールを理解する。また学校行事や授業スケジュールの再確認をする。 社会人基礎力を身につける。							
【到達目標】							
自己肯定と他己肯定が出来るようになる(自分とクラスメイトを受けいれ、肯定する) 人に伝わる自己表現ができるようになる 人の話を聞く姿勢が理解できるようになる							

回数	授業計画・内容
1回目	学校ルールを再確認し、各ルールの意味を理解したうえで、自己採点・振り返りを行い、何事も意味考えて行動することを学ぶ
2回目	入学時の自分と現在の自分を見比べ、どう変わったか振り返る
3回目	専門式場見学:企業について深く理解する
4回目	クラスメイトの良いところ探しをし、お互いに自分の強みを見つける
5回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る
6回目	共感の方法を理解し、人の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを身につける
7回目	人に伝えようとする姿勢、聞きとろうとする姿勢を理解する
8回目	専門式場見学:企業について深く理解する
9回目	特別講義:講義を通して、夢を実現する方法を知る
10回目	企業研究①企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について知る
11回目	企業研究②企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について、プレゼン資料の作成をする
12回目	企業研究③企業研究(グループ毎)を行い、目指す業界について、プレゼン資料の作成をする
13回目	企業研究発表①
14回目	企業研究発表②
15回目	1年間の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験・課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	ホスピタリティ教養Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
五感ワークデザイン主催・代表：メーカーでマーチャンダイザーとしてリアルとオンラインのマーケティングや人間行動心理学に基づく旗艦店設計を実施後、ブランディングデザイン会社でコーポレートブランディングに従事。現在は企業の課題解決プログラムを設計(リーダーシップコーチング・成果を出すチーム)・企業ブランディング(ビジョン・ミッション・バリュー・パーパス設定とコンセプト設定)・パーソナルブランディングやセルフマネジメントを実施。アントレプレナーシッププログラム(ビジネスモデル)を社会人・大学生・中高生対象に企業や学校と連携して実施。							
【授業の学習内容】							
言語(語彙・文法)と一般常識(時事・社会)に焦点を当て、SPIの基礎力定着と得点力アップを目指す。							
【到達目標】							
SPI言語問題の主要な出題形式(語彙、文法、長文読解)に対応できる基礎知識を習得する。 時事問題や社会・経済の基本知識を整理し、常識問題への対応力を高める。 全15回の学習を通じて、SPIの一般常識分野で安定して高得点を獲得できる実力を養成する。							

回数	
1回目	オリエンテーション：SPI模擬試験 SPI言語問題の全体像と出題形式の確認。二語の関係(同義語、対義語、類義語など)の徹底演習。
2回目	語句の意味(多義語、適切な用法)の学習。同音異義語・同訓異義語。難解な漢字の読み書き、誤りの指摘を学ぶ。
3回目	熟語の成り立ち(例：左右対称、目的語・動詞)のパターン認識。品詞の分類と敬語の基本ルールを学ぶ。
4回目	文の並べ替え問題の解法テクニック。ビジネス文書で頻出する語句の定義(例：コミットメント、コンプライアンス)を学ぶ。
5回目	論理展開の把握、接続詞の役割。設問タイプ(内容一致、主旨、要約)別の解法アプローチを学ぶ。
6回目	論理的な文章(意見、解説文)を用いた長文読解の実践練習。時間配分と速読のトレーニングを行う。
7回目	三権分立(国会・内閣・裁判所)の役割。選挙制度の基本。憲法と法律の概要を学ぶ。
8回目	国際連合(UN)の主要機関と役割。G7/G20、ASEANなどの地域連携。日本の外交政策の基本を学ぶ。
9回目	需要と供給、市場の仕組み。GDP、物価(インフレ・デフレ)の基本を理解する。
10回目	景気循環、財政政策と金融政策(日本銀行の役割)。為替レートの基礎知識を習得する。
11回目	社の形態(株式会社など)。決算書の基本(貸借対照表・損益計算書)。マーケティングとCSRを理解する。
12回目	労働基準法の基本(労働時間、賃金)。社会保険(健康保険、年金、雇用保険)の仕組み。ハラスメント対策について理解する。
13回目	直近1年間の主要なニュース(政治、経済、社会、科学)。重要用語の確認と解説を行う。
14回目	SPIの言語と一般常識(時事含む)の模擬試験を実施。時間配分の練習と弱点把握を行う。
15回目	模擬試験の結果に基づいた再頻出・間違いやすい問題の集中復習。常識問題の最終知識チェックと総まとめ。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Global CommunicationⅣ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 推測の表現を用いて、絵や写真の描写をする
2回目	U4.2 関係代名詞を使って、ネット等で注目されている人、ストーリーについて話す
3回目	U4.3 [all]を使い、強調したい内容を述べる練習をする 意見を交換し、ディスカッションをする
4回目	U4.4 ローカルビジネスについての記事に対する反応を読む、書く
5回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「広告をデザインする」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U5.1 過去完了を使って、 様々な種類のストーリーについて話す
7回目	U5.2 [was/were going to, was/were supposed to]を使って、計画の変更について話す
8回目	U5.3 失望を表す表現を使って、残念なニュースへのリアクションをする
9回目	U5.4 会社の(公式の)謝罪についての記事を読む、謝罪の手紙を書く
10回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「偶然の出会いについてのストーリー」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U6.1 チャリティやボランティア活動について話す
12回目	U6.2 近所の人の親切な行為について話す
13回目	U6.3 様々な助けが必要な場面での会話を練習する
14回目	U6.4 コミュニティ計画についてのレポートを読む、書く
15回目	U6.5 Time to Speak:学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語Ⅰ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	英文法&英会話Ⅳ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 広告に関する表現を学ぶ [might, must, can't](推測)の使い方を学ぶ
2回目	U4.2 メディア関連の人を表す表現を学ぶ 関係代名詞の主格、目的格について学ぶ
3回目	U4.3 /ɔ/, /ɑ/の発音について学ぶ 意見交換・ディスカッションする際の表現を学ぶ、allを用いた強調表現を学ぶ
4回目	U4.4 [because,so]を用いて理由や結果を述べる表現を学ぶ
5回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U5.1 ストーリーの種類を表す表現を学ぶ [had/would](過去完了形)の使い方を学ぶ
7回目	U5.2 計画を立てる・破る際の表現を学ぶ [was/were going to, was/were supposed to]の使い方を学ぶ
8回目	U5.3 語末の子音の発音について学ぶ 問題への対応、解決策の提示・受領の表現を学ぶ、失望を表す表現を学ぶ
9回目	U5.4 謝罪の気持ちを表す様々な表現を学ぶ
10回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U6.1 善い行いに関する表現を学ぶ 「受動態(現在形、過去形)」を学ぶ、復習する
12回目	U6.2 良い行いを表す動詞・名詞・形容詞の形を学ぶ 「受動態助詞」[must, might, can, will]の使い方を学ぶ
13回目	U6.3 /b/, /v/の発音について学ぶ 助けを求める、また断る際の表現を学ぶ
14回目	U6.4 語中の/j/の発音について学ぶ レポートの中での意見を述べる表現を学ぶ
15回目	U6.5 Unitの復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャーエアライン基礎	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
航空業界について詳しく知り、将来のキャリアの選択肢として考察することができる。							
【到達目標】							
航空業界の職業に従事する上で、必須となる知識を習得する。業界の最新情報を自ら習得し、まとめ、発表する力を身につけることができる。業界用語を知ることにより、面接やディスカッションにも活かすことができる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 今後行われる講義について知ることができる
2回目	航空会社の違いを理解することができる
3回目	CA・GSについて詳しく知ることができる
4回目	航空機の基本構造を知ることができる
5回目	空港内サービスや施設について学び、様々な職種と伊丹空港や関連施設について知ることができる
6回目	空港内サービスや施設を見学し、様々な職種と関西空港や関連施設について知ることができる
7回目	自分自身に合った航空会社や業種を知ることができる
8回目	コロナ禍が航空業界にもたらした影響を知ることができる
9回目	3レターの知識を得ることができる、CAストーリーの作成
10回目	グランドスタッフ・CAとのチームワークについて知ることができる
11回目	航空整備士や管制官など航空業界の様々な職業、CAとのチームワークについて知ることができる
12回目	航空業界の専門用語を学ぶことができる
13回目	航空会社の経営上の特徴、その他業界との違いを理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が作成したレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャー調理	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ハイアットリージェンシーオーサカに10年勤務。その後、飲食店を開業。 これまでに20か国以上のシェフや友人から料理や文化の情報交換をし、業務に携わる。 現在は株式会社ジスタスの代表取締役。 飲食事業のコンサルティング、農作物販売、人材教育、心理カウンセラーとしても活動している。							
【授業の学習内容】							
ジャンルを問わず、各国料理や保存食・作り置きを学ぶことにより調理の知識やスキルのアップを図る							
【到達目標】							
知識・技術… トルコ、ベトナムなどのエスニックの調理法や独自の調味料を使用したり 保存食などの仕込み法を身につける。 キャリア教育… グループでの実習で協力し、時間の管理・衛生管理を行いながら調理～片付けなどを行う							

回数	授業計画・内容	
1回目 2回目	トルコ料理の調理方法 ドネルケバブ・ピーマンのドルマ・フムス	
3回目 4回目	スパイスの使い方 タンドリーチキン・サモサ・ショウガ風味のアイス	
5回目 6回目	作り置きの注意点 レバーパテ・レーズンバター・ドライフルーツのコンポート	
7回目 8回目	調味料の扱い方 バインセオ・ベトナム風豚の角煮・バインフラン	
9回目 10回目	イタリア料理の調理方法 ナポリ風ミートボールの煮込み・手打ちパスタ・白いんげんのサラダ	
11回目 12回目	韓国料理の調理方法 豚肉の薬味みそ焼き・豆乳とおぼろ豆腐のスープ・豆もやしごはん	
13回目 14回目	保存食の取り扱い 手作りソーセージ・ザワークラウト・手作りロースハム	
15回目	課題レポート作成	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		
講師配布の授業レシピ		

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	Wメジャー製菓	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1981～1985 芦屋パティシエ・ドゥ・ミシェルにてお菓子の製造に携わり、阿部忠二氏に師事をうける。 1985～1986 ホテルプラザにてお菓子の製造に携わる。 1986～1996 ホテルニューオータニ大阪にてアシスタントシェフとして勤務する。 1999～現在 大阪夕陽が丘にケーキ・ド・コーキを開業しオーナーシェフとして商品の製造、開発、スタッフ育成を行う。							
【授業の学習内容】							
色々な菓子を作る中で製菓の基礎知識、基礎技術を学ぶ							
【到達目標】							
知識・技術… 器具や食材の扱い方や、お菓子作りの基礎をマスターする。							
キャリア教育… 挨拶、返事はもちろん、チームで作業効率をあげることができる。時間管理ができる。 効率的な準備片づけ・清掃・整理整頓ができる。							

回数	授業計画・内容
1回目 2回目	製菓実習を行う上での心構えを理解することができる。ペティーナイフを使って様々なフルーツを 同じ形に切ることが出来るようになる。”☒
3回目 4回目	計量手順の確認 クレームブリュレ、サブレ生地 基本材料の性質を理解しながら的確に仕込むことが出来るようになる。
5回目 6回目	フロランタン チョコチップクッキー さまざまな仕込みのクッキー生地の習得ができる。
7回目 8回目	シフォンケーキ、クッキー仕込み 道具の使い方、チームでの動き方を再確認し、焼き菓子を作ることが出来る。
9回目 10回目	タルトフレーズ タルトレットフリュイ タルト生地の伸ばし、型はめ、クレームダマンド仕込みが実践できる。
11回目 12回目	ニューヨークチーズケーキ バスクチーズケーキ 様々な基本的製造方法を理解し、実践できる。
13回目 14回目	シュークリーム 紅茶シフォン クレームパティシエールを確実に仕込むことができる。
15回目	授業のまとめを行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
配布レシピ、ボールペン	

授業シラバス							
科目名	エクステンションゼミ		必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員
	Wメジャー製パン		授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						後期
【担当教員 実務者経験】							
平成元年～平成12年 ベーカリー ル・パンーにてパンの製造に携わる。 平成12年～平成16年 パンランド・シェ・ミチコにてパンの製造に携わる。 平成16年～現在 スイスホテル大阪南海 にてベーカリー料理長としてホテル内の宴会場、レストラン、ショップで提供される全てのパンを管轄している。							
【授業の学習内容】							
食材や器具の取扱い、製パンの技術を様々なレシピを通して基礎技術となる成形、分割、焼成を行っていきます。 レシピはパンを中心にその中に入る具材となる調理系、製菓系など色々な国パンを作り、理論、技術も一緒に行います。							
【到達目標】							
知識... ミキシング、発酵、成形、焼成等、製菓製パンの基本的な作り方を理論で理解する 技術... パンの手捏ね。生地の混ぜ方。副材料を使用したバリエーションを学ぶ。 キャリア教育... グループでの作業性、時間管理。掃除、整理整頓。							

回数	授業計画・内容	
1回目 2回目	イングリッシュマフィン スウィート エッグベネディクト ※味のバランスを学ぶ イギリスのパンを学ぶ。 料理との合わせ方を学ぶ。	
3回目 4回目	ワインローフ シュトーレン ※生地の仕込み方を学ぶ ドイツのパンを学ぶ。 クリスマスの伝統的なパンを学ぶ。	
5回目 6回目	ベーグル ベーグルサンド ※ケトリング、味のバランスを学ぶ ポーランドのパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。	
7回目 8回目	クグロフチョコラ ※生地の扱い方を学ぶ フランスのパンを学ぶ。 クリスマスの伝統的なパンを学ぶ。	
9回目 10回目	チャバタ チャバタサンド ※味のバランス イタリアのパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。	
11回目 12回目	マラサダドーナツ ※ドーナツの揚げ方を学ぶ ハワイのドーナツを学ぶ。 油調を学ぶ。	
13回目 14回目	ピタパン ピタサンド ※綿棒の使い方を学ぶ 中東の国のパンを学ぶ。 サンドイッチの構成を学ぶ。	
15回目	課題レポート作成	
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される	
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出	
【使用教科書・教材・参考書】		
実習器具一式・レシピ・iPad		

授業シラバス

科目名	ホスピタリティエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	
	インターンシップ	授業 形態	演習	時間数 単位数	240 16	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
実際の業務体験を通じてプロフェッショナルなスキルと意識を身につける							
【到達目標】							
プロフェッショナル適応力: ホテル・ホスピタリティ業界におけるプロフェッショナルな心構え、サービス基準、および職場の倫理を理解し、実践できる。 異文化職場対応力: 留学先の文化を考慮した効果的なコミュニケーション、チームワーク、および問題解決能力を、職場の環境で応用できる。 キャリア形成意識: インターンシップの経験を自己成長と結びつけ、帰国後のキャリア目標を具体的に設定できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション:インターンシッププログラム参加に向けて、目的(スキルアップ、キャリア探索、文化体験)、インターンシップ先での評価基準と心得を確認する
2回目	・各インターンシップ先で実際に勤務し、スキルと人間関係の構築、顧客対応を学ぶ ・達成目標に対する進捗確認と、経験から得られた能力・意識の言語化を行う
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	全体の総括と、個別の疑問・懸念事項の解消を行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	海外留学	授業 形態	演習	時間数 単位数	450 30	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
オーストラリア現地での生活や学習にスムーズに適応できる基礎能力を養成する。							
【到達目標】							
言語活用: 現地での日常生活に必要な基本的な英語表現(買い物、交通機関、医療など)を使いこなせる。 異文化適応: 留学先の文化やマナーを理解し、自己の考えを適切に表現するスキルを身につける。							

回数	
1回目	オリエンテーション プログラム参加に向けて、目的(スキルアップ、キャリア探索、文化体験)を確認できる
2回目	・留学先で実際にホストファミリーと生活を共にし、人間関係の構築、実践的な言語能力、コミュニケーション技法を学ぶ ・達成目標に対する進捗確認と、経験から得られた能力・意識の言語化を行う
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	全体の総括
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ・キャリア教育	必修選択	必修	年次	3	担当教員	
	キャリアプログラムⅤ	授業形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ホテルに特化した人材ビジネスに長年携わり、人事との交流や理想の実現に向けた求職者対応(面談、アドバイス)を行う。近年はホテル人事として業界内部で新卒、中途の採用に携わる一方で、インターンシップを通じキャリア形成についても発信する。2022年4月国家資格キャリアコンサルタント合格。							
【授業の学習内容】							
・グループワークを実施し、自己分析を深め、伝える力を磨く。 ・実技演習を活用し、本番の緊張感を持って、自己PRを表現力豊かに演習する。 ・グループディスカッション演習も複数回実施し、コミュニケーションスキルを磨く。							
【到達目標】							
・就職活動で提出できる履歴書をもとに、自己を魅力的に、具体的にわかりやすく他者に伝えることができる。 ・グループの中でのコミュニケーションスキルを発揮し、印象良く協働作業ができるとともに、オフィスにふさわしい身だしなみが理解でき体験できる。 ・自分の「強み」を自己分析し、伝わる表現方法でアピールすることができる。 ・自分のキャリアについて考察を深め、どんな企業に就職したいか具体的にイメージし、行動できる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	【オリエンテーション】 ・就職とは何かを再確認することができる。 ・夏休みのできごとを言語化し、他者にわかりやすく伝えることができる。						
2回目	【先輩方の体験談を聴き、リアルに自分の就職活動をイメージし、取り組むべきことを理解する】 ・実際に、就職活動をした先輩方の体験談を聴き、より具体的にイメージできるようになる。 ・不安な点など先輩に質問し、やるべきことを明確にできるようになる。						
3回目	【よくある面接での質問に答える力をつける】 面接で、よく聞かれる質問に対して、印象よく答えることができる力をはぐくむことができる。						
4回目	【オリジナルティあふれる自己PRを創ろう】 ・自己PRの内容をグループでさらに深めることができる。 ・印象良く、自己PRを伝えるポイントを知ることができる。						
5回目	【得意・努力した科目を見直す】 ・得意・努力した科目について、伝わる表現ができているか確認することができる。 ・印象良く、表現力豊かに伝えることができる。						
6回目	【グループディスカッションを体験する①】 ・グループディスカッションの模擬演習を体験することができる。 ・受付～入室～着席～説明～グループディスカッション～退室の流れを体験し、印象の良い学生はどのような学生か理解することができる。						
7回目	【グループ面接を体験する①】 ・グループ面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することと、自分の客観視ができる。						
8回目	【個人面接を体験する①】※オフィスカジュアルDAY ・個人面接の模擬演習を体験することができる。 ・客観的に見学することで、印象の良い学生を理解することができ、自分の印象も客観視できる。						
9回目	【本気の思いが伝わる志望動機】 ・自分の志望企業に対して、より熱意の伝わる伝え方や、相手に響く伝え方を実践することができる						
10回目	【エントリーシート形式で自分を豊かに表現する】 ・白紙のA4用紙を用いて、自分を自由に表現した課題を用いて、豊かに伝わりやすく自己表現をすることができる。 ・クラスメイトの表現力を客観視することで、表現力をより磨くことができる。						
11回目	【質問に対する対応力を磨く】※オフィスカジュアルDAY ・想定外の質問に対しても、動じることなく、自分らしく瞬時に考え、返答するスキルを磨くことができる。 ・どうしても答えが思い浮かばない際の臨機応変な対応を知り、実践することができる。						
12回目	【実技演習 グループディスカッション②】						
13回目	【実技演習 グループ面接②】※オフィスカジュアルDAY						
14回目	理解度チェック 実技演習個人模擬面接 ※オフィスカジュアルDAY						
15回目	理解度チェック(欠席者)/復習						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	プレゼンテーション基礎	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ&インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
本授業ではPowerPointの高度な操作を習得し、説得力ある資料作成力を磨きます。さらに実践ワークを繰り返し行うことで、聴衆を惹きつける話術や所作などプレゼンテーション力全般を向上させます。							
【到達目標】							
ビジネスシーンで必要とされるプレゼンテーションを理解して、クライアントのニーズを汲み取り、期待を形に変えることで、聴衆の心を動かす行動に変えるプレゼンテーションができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の目的と概要の説明						
2回目	プレゼンテーションの基本構造① ターゲット、聴衆の特定、プレゼンテーションの明確化、聴衆のニーズに合わせた内容の分析や調整ができるようになる						
3回目	プレゼンテーションの基本構造② ストーリー構成を考える。起承転結を意識した物語を考えることができるようになる						
4回目	スライド設計① スライドマスターを使ってテンプレートを作成、フォント、配色、レイアウトを考えて視覚的に興味をひくスライドを作成できるようになる						
5回目	スライド設計② 表やグラフを使ってデータを効果的に見せるようになる						
6回目	スライド設計③ アニメーションやPowerPointの機能を使用して視覚的に効果的なスライドを作成することができるようになる						
7回目	課題作成①						
8回目	発表 パワーポイントの資料重視						
9回目	デリバリースキル① 発声、姿勢、アイコンタクトの取り方を研究して、効果的にプレゼンテーションができるようになる						
10回目	デリバリースキル② ジェスチャー、間の取り方を研究して、効果的なプレゼンテーションができるようになる						
11回目	課題作成② CANVAの基本 webの資料作成アプリを使用して、時短で資料が作成できるようになる						
12回目	発表 デリバリー重視						
13回目	ブラッシュアップ 質疑応答、フィードバックを元にプレゼンテーションの改善を行うことができるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	企業プロジェクトⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1996年～2006年まで大東楽器株式会社にて、チーフ・店長として教室運営、催事や販促の企画・実施、スタッフ育成などに従事する。現在は企画プロデュース・プロジェクトマネジメント・ビジネストレーニングなど、ビジネス業務におけるマネジメントスキルや商品・人材に関わるテーマを扱う研修、講義を担当。 また、企業にてマネジメント、仕組化などのサポートを行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
14回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
15回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ教養	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ホスピタリティ教養Ⅲ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2015年～2022年まで大阪市消防局勤務。3年間の消火隊、4年間特別救助隊所属。火災現場、救助現場、水難現場経験。2022年より約2年間オリックス生命保険で生命保険の営業を学び、現在はハートリンクコンサルティング株式会社にて、セミナー活動や、高校にて金融講義を実施。							
【授業の学習内容】							
社会人として最低限必要な金融知識を学習する。自身の収入、支出、自身にかかわるお金の知識を学び、日常にかかわるお金に関する不安をなくす。							
【到達目標】							
お金の価値を知って、人生を豊かにする。(お金の価値＝価値＋生き方) また金融知識・金融知識を学ぶ大切さを周りに伝えられるようにする。							

回数	
1回目	オリエンテーション／人生・夢・目標樹立の目的共有。ワーク：10年後・30年後の自分を想像。夢とお金のつながりを体感する
2回目	お金の価値とは？／お金の歴史と仕組み 物々交換→貨幣→デジタル化の流れ。お金の本質＝信頼であることを学ぶ
3回目	仕事のやりがいとお金のバランス 〆やりたいこと」と「稼げること」の交差点。自己肯定感とキャリア観を育む
4回目	給与の仕組みを理解する 給与明細の見方・手取りの考え方・社会保険・福利厚生について
5回目	税金ってなんのため？ 所得税・住民税・年末調整の仕組み。税の使われ方を知る
6回目	金利の世界を知る／住宅ローン・奨学金の実態 単利と複利の違い、住宅ローン・奨学金のリアルな金利負担を計算してみる
7回目	資産運用の基本を学ぼう 投資信託・NISA・iDeCoの基本。「貯める」から「育てる」へ
8回目	保険と命①：リスクと保険の基本 公的保険と民間保険の役割。ケガ・病気・死亡リスクの備え方
9回目	保険と命②：家族を守るとはどういうことか 公的価値、遺された人の暮らし、保険加入の考え方を事例で学ぶ
10回目	ライフプランシミュレーション① 〆生にかかるお金(結婚・住宅・教育・老後)を年表に書き出すワーク
11回目	世の中の流れを読む／お金の摂理とは 〆フレ・人口減少・テクノロジーなど社会の変化と自分の関係性
12回目	ホテル業界のお金とキャリア 〆際のホテル業界でのお金の流れ、職種別の年収、スキルアップでどう変わる？
13回目	リアルライフプランシミュレーション(10年計画) 〆分の10年間の人生設計をつくる。就職・転職・結婚・貯金・旅行など盛り込み可
14回目	理解度チェック 救命講習(命を守るお金以外の力) 〆の大切さを実感し、「備える力」の意味を体感。元消防士の現場経験
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習 まとめ・発表／未来に向けた一歩 〆自の人生設計・ライフプラン発表。全体ふりかえり・感謝とエール
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	空間演出	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
フローリストナナ代表、フラワー装飾1級技能師、大阪府知事認定講師、日本ブライダル協会認定ウェディングプランナー。 様々な企業のブライダル事業及びブライダル装花部開設等コンサルトレーナーを務める。また、ホテルや商業施設装飾。CORAL SUITE VILLA淡路の創設等、多岐に 渡る分野に従事。 現在は、(株)ワールドウェディング堺にてプロデュース事業部マネージャー、(株)セントカンパニー＜空間フレグランス企業＞にてマーケティングディレクターを担う。							
【授業の学習内容】							
サービス業のホスピアアイテムとして欠かせる事の出来ない空間演出マーケティングとは？を学び、花と香が五感に与える影響力、本物に触れる事により、提案力の高い サービスマンを目指す事が出来るようになる。							
【到達目標】							
日本人の生活習慣に馴染みのない花や香りがホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、感性を刺激し、新たな視野をもてるようになる ようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション BtoB,BtoCの用途別空間演出の種類、花を使った装飾の種類及び、市場価格を知る
2回目	9階エレベーター前のクリスマス装飾を考案し、役割分担を明確にする(現調～準備)
3回目	9階エレベーター前クリスマス装飾を行う
4回目	生花アレンジメントを作成できるようになる
5回目	テーブル装飾を理解し、合同レストランイベントテーブル装飾のイメージを考案する
6回目	合同レストランイベントテーブル装飾に必要な資材を準備する
7回目	合同レストランイベントテーブル装飾を作成する
8回目	装飾の片付けと振り返り
9回目	生花花束を作成できるようになる①
10回目	生花花束を作成できるようになる②
11回目	嗅覚マーケティングとはを理解し、テーマ・コンセプトに合った四季の香りを選定する(グループワーク)
12回目	グループ毎に四季の香りを決定し、資料を作成する(グループワーク)★PC要
13回目	グループ毎に発表を行い、四季の香りを決定。及び、POPを作成する(グループワーク)★PC要
14回目	フレグランス調査を行い、校舎内の効果的な場所に設置できる
15回目	学期の振り返り
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	TOEIC II	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
TOEIC® L&Rテストの出題形式と時間配分を完全に理解し、効率的な解答戦略を習得すること。ビジネス・日常英語の語彙力と文法力を強化し、実力に裏打ちされたスコアアップを実現することを目指す。							
【到達目標】							
TOEIC® L&Rテスト全7パートの出題傾向と解答戦略を完全に把握し、実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション TOEICの構成(L&R全7パート)、目標スコア設定、学習スケジュールの確認
2回目	文脈とディスコースマーカ―(話の流れを示す語)を読み取る練習。文挿入問題の解法を学ぶ
3回目	前後の文脈から代名詞(it, they, one, anotherなど)が指すものを正確に特定する
4回目	記事、メール、手紙など、文書の種類ごとの構成パターン。スキミングとスキニングの使い分けを学ぶ
5回目	「～について言及されていること」、「～の意図」、「NOT問題」など、質問形式別の解答アプローチを学ぶ
6回目	2つの文書間の関連情報を見つける練習。設問の指示に従って文書を行き来する効率的な方法を学ぶ
7回目	3つの文書に含まれる情報を統合し、全体を俯瞰する訓練。時間配分の最終確認
8回目	模擬試験①
9回目	文脈から意味を判断する多義語、同意語(言い換え)**問題の対策語彙を学ぶ
10回目	TOEIC特有の句動詞(take on, put up withなど)や慣用的な形容詞・副詞のセットを学ぶ
11回目	模擬試験②
12回目	1問20秒以内の解答スピードを目指す演習を行う
13回目	長文読解に集中し、1問1分の解答スピードを目指す演習を行う
14回目	模擬試験③
15回目	全体の振り返り、スコアの予測と分析、本番に向けた心構えと今後の自主学習計画作成
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	IR基礎	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了の後、シンガポール・マリーナベイサンズに勤務。 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。 インタナショナル・ゲーミングスクールの校長として世界基準のカジノディーラーの人材教育。 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
・海外事例にみるIR(統合型リゾート)の有効性 ・世界のカジノの歴史と文化 ・日本IRの有効性(法律・制度設計・開発計画) ・カジノディーラーの仕事 ・カジノマナー(ブラックジャック・バカラ・ルーレット・ポーカー)							
【到達目標】							
海外IRの考察から日本IRの有効性を正しく理解することで将来のIRビジネスへのビジョンを持つ。 世界基準のカジノマナーとゲームルールを体験しながら学び、カジノの本質を知る。							

回数	
1回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性① / ブラックジャックのゲームルールとマナー①
2回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性② / ブラックジャックのゲームルールとマナー②
3回目	海外IRの成功事例と日本型IRの有効性③ / ルーレットのゲームルールとマナー①
4回目	世界のカジノの歴史と文化① / ルーレットのゲームルールとマナー②
5回目	世界のカジノの歴史と文化② / バカラのゲームルールとマナー①
6回目	世界のカジノの歴史と文化③ / テキサスホールデムポーカーのゲームルールとマナー①
7回目	カジノディーラーの仕事① / テキサスホールデムポーカーのゲームルールとマナー②
8回目	カジノディーラーの仕事② / カジノディーラー体験①
9回目	カジノディーラーの仕事③ / カジノディーラー体験②
10回目	カジノマナー実践研究①: ブラックジャック
11回目	カジノマナー実践研究②: ルーレット
12回目	カジノマナー実践研究③: バカラ
13回目	カジノマナー実践研究④: テキサスホールデムポーカー
14回目	理解度チェック
15回目	カジノ大会を実践し、技術の習熟度を確認できる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%/実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	バー実習	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリ ティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在 に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
バーにおいて必要な技術・知識をカクテル実習をメインに学習すると共に、ホテルバーマンとしての立ち振る舞いや、ホスピタリティを学ぶ事を目的とする。							
【到達目標】							
カクテル調合技術や基本的なお酒の知識を習得すると共にオリジナルノンアルコールカクテル創作とそのプレゼンテーションを習得する事を目標とする。							

回数	
1回目	オリエンテーション 教員を含め生徒の自己紹介 今後のスケジュール説明や最終目標の共有
2回目	カクテル調合技術の習得 ビルド（バースプーンメジャーカップ ボトルの取り扱い） ミニ講義「お酒 アルコールについて」
3回目	カクテル調合技術の習得 ステア（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「お酒のカテゴリーについて」
4回目	カクテル調合技術の習得 シェイク（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「カクテルについて」
5回目	カクテル調合技術の習得 ブレンド（ノンアルカクテル制作） ミニ講義「デコレーション・ガーニッシュ・フルーツについて」
6回目	バーテンダー講義「ホテルバーでのサービスについて」そこで働くバーテンダーのお仕事について
7回目	カクテル実習 今までの技術のおさらい「チームに分かれていろいろなカクテルを制作してみよう！」
8回目	オリジナルカクテルの創作方法「カクテルコンペティション」についての講義 前期試験課題 オリジナルカクテル創作 テーマ発表
9回目	オリジナルカクテルの創作 前期試験課題内容についての詳細説明
10回目	オリジナルカクテルの創作 壇上の動きについて
11回目	オリジナルカクテルの創作 プレゼンテーションについて 自身のカクテル撮影
12回目	第1回 オリジナルカクテルコンペティション（オリジナルカクテルの発表会） Bチームはカクテル審査員体験
13回目	第2回 オリジナルカクテルコンペティション（オリジナルカクテルの発表会） Aチームはカクテル審査員体験
14回目	理解度チェック 最終結果発表 表彰式（第1回、第2回 共に 優勝 準優勝 発表）
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	テーブルサービス	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年～名古屋リゾルト入社 メイン・イング 勤務。2011年～地産ルンガ「豊田L'eclat de rire」をサービス支配人として立ち上げ、2014年よりホテル・スイート神戸ハーバーランド 入社。レストランMGR、料飲統括マネージャーを経て、2022年より料飲部支配人として勤務中。2019年第18回メトリック・セルグイ杯にて優勝、観光庁長官賞受賞。2021年CGB世界大会日本代表。2021年より国内大会運営及び審査員に参加。MS(メトリック・セルグイ)の会育成分科会員。 所有資格 JSA認定調理師、CPA認定チーフ・コック、メトリック・セルグイ、HRS2級							
【授業の学習内容】							
フレンチをベースとしたレストランサービスにおける基礎知識を学び、実際の現場を想定した実習を理論と共に実践する。 実際のコンクール視点からのプロとしての立居振舞、必要とされる知識を身に付ける。 基本的には1週の内、1限を座学及び講習とし、1限を実習とする。 各授業ではパッシング及び洗浄・拭き上げ、ダイニングの現状維持も授業内容の一環とする。							
【到達目標】							
コンクール課題を通し、現場のレストランで対応できるワゴンサービスの基本と、レストランサービスの基礎知識を習得する。 実際のコンクールに触れることにより、配属後のキャリアアップに役立つ技術を理解できるようになる。							

回数	
1回目	・コンクールの重要性和その価値、実際の現場での汎用性を理解できるようになる。 ・この授業での半年間のゴールを明確に把握できるようになる。 ・実習：オレンジのカットを習得する。
2回目	・メニュー作成：メニューの構成と表現の基礎を習得する。 ・ゲストに対する魅力あるプレゼンテーションができるようになる。 ・実習：グレープフルーツのカットを習得する
3回目	・デザートレシピ作成：レシピ作成の基本と構成を理解できるようになる。 ・アントルメの基礎知識を理解できるようになる。 ・実習：アイスクリームのクネルをできるようになる。
4回目	・レストランに於けるワインテイスティングとその表現を英語で理解できるようになる。 ・ワインペアリングの基礎とプレゼンテーションを理解できるようになる。 ・実習：ワインテイスティングと表現の実践し、自身のスキルとして習得する。
5回目	・コンクールに求められる知識と、一般的なフランス語を教養として理解できるようになる。 ・実習：キウイフルーツのピリングとサービスを習得する。
6回目	・オリジナルデザートのレシピ作成を出来るようになる。 ・ワインの抜栓とサービスを復習することによってスムーズに行えるようになる。
7回目	・CUOイベント対策 実際にCUOイベントの料理・ワインを対象にテーブルサービスとワインサービスを出来るようにする。
8回目	・レポート作成：実際のコンクールに提出するデザートをレシピとして作成できるようになる。 ・コンクールに向けたメニュー作成：実際のコンクールで使用するメニューを生徒自身で造り上げ、メニューに対する造詣を深められるようになる。
9回目	・CUOイベント対策 CUOイベントの料理・ワインのサービスを復習し、イベント内のオレンジのデザートの練習と共にクオリティを上げられるようになる。
10回目	・ワゴンサービスの実演：オリジナルデザートを実際にワゴンサービスでできるようになる。
11回目	・テイスティングコメントを日本語・英語で両方で考えることによって、 ワインに対する本質を理解できるようになる。 ・実技試験に向けたワインテイスティングコメントの作成とサービスが出来るようになる。
12回目	実技試験：英語でのワインテイスティングとコメント発表 ・メニュー説明の反復練習とオリジナリティのある文言を作成できるようになる。
13回目	オリジナルデザートの試験前復習： ・反復練習する事によって実技試験をスムーズに行う事ができるようになる。
14回目	実技本試験：オリジナルデザートのワゴンサービス (制作展示での代表メンバーの選考を兼ねる) ・試験結果の発表と講評
15回目	事前演習：実際のコンクールリハーサルを行うことで本番の緊張感を体感し、より高いパフォーマンスをできるようになる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	料飲・レストランオペレーションⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、2013リゾートトラスト 等を経て現在はシンガポールに拠点を置くラグジュアリーホテル、バンヤンツリー(Banyan tree)グループのレストランオペレーションに携わっています。料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。							
【授業の学習内容】							
和食のサービス体験や、酒蔵見学を通じてより奥の深いサービスについて学び、知識を深める。							
【到達目標】							
和食のマナー、サービスの体験により実践で生かせる知識を習得できるようになる。							

回数	
1回目	授業内容の説明と宿泊体験のレポート提出、自己紹介
2回目	日本料理のマナーを理解出来るようになる①
3回目	日本料理のマナーを理解出来るようになる②
4回目	日本料理のマナーを理解し、実践出来るようになる
5回目	日本料理のサービスを理解出来るようになる①
6回目	日本料理のサービスを理解出来るようになる②
7回目	酒蔵見学で日本酒の製造工程、流通、提供時の案内について理解できる
8回目	酒蔵見学レポートの提出と振り返りを行う
9回目	着物の着付を学び、自装ができるようになる①
10回目	着物の着付を学び、自装ができるようになる②
11回目	着物を着て接客サービスをする方法を学ぶ
12回目	茶道の概要、歴史、点前について学び、実践できるようになる
13回目	ホテルサービス番外編：中国茶を理解出来るようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	エアライン就職対策Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
完成した応募書類の内容を基に、個人面接、グループディスカッション/ワーク、集団面接といった選考形式に対応できる実践的なコミュニケーション能力とビジネスマナーを徹底的に磨き上げる							
【到達目標】							
・いかなる質問形式(自己PR、志望動機、困難克服など)にも自信を持って論理的に回答できる。 ・グループワークにおいてリーダーシップと協調性を両立させ、組織での貢献意欲を示せる。 ・面接における身だしなみ、立ち居振る舞い、言葉遣いにおいて高いレベルのプロフェッショナリズムを発揮できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 面接の種類(個人、集団、グループ)。面接官が評価する5つのポイント(熱意、適性、論理性、マナー、健康)を理解する
2回目	ノック、挨拶、お辞儀、椅子の座り方、退室までの一連の動作を反復練習を行う
3回目	敬語の正しい使い方、丁寧語、謙譲語。面接でのアイコンタクト、微笑みの練習をする
4回目	志望動機、自己PR、入社後の目標など、核となる質問への回答を、ESの内容と齟齬がないようチェックする
5回目	「最近気になるニュース」「他社との違い」「弊社の欠点」など、考える力が試される質問への論理的回答練習を行う
6回目	GDの目的(チームワーク、傾聴力、貢献度)。発言のタイミングとファシリテーター、タイムキーパーの役割を実践する
7回目	観光やサービスに関する具体的な課題解決テーマ(例:インバウンド増加策)でGDを実践し、フィードバックを行う
8回目	GDとは異なるGW(共同作業)の形式への対応。傾聴力と貢献意欲をバランス良く示す練習をする
9回目	集団面接での制限時間内(1分～1分半)での効果的な自己アピールと、他の受験生との差別化をする
10回目	英語での自己紹介、志望動機、海外経験に関する質問対応。発音、表現力、度胸を鍛える
11回目	外資系で頻繁に行われるグループレクリエーション(ゲーム形式)を通じた協調性と柔軟性の評価対策を行う
12回目	全日本空輸(ANA)、日本航空(JAL)など、日系大手FSCの採用形式を想定した個人模擬面接を行う
13回目	LCCや外資系の面接で求められる明るさ、個性、バイタリティを意識した集団模擬面接を行う
14回目	筆記試験から最終面接までの全体像を再確認。面接対策の疑問点解消と個別相談を行う
15回目	採用選考の最終フェーズを想定した総合的な模擬面接を実施し、評価(フィードバック)を行う
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業における評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	グローバルサービス	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
JALグループで2004～2018年まで先任客室乗務員として乗務する。安全で快適な空の旅を提供するとともに、安全担当として後輩育成にも注力してきた。							
【授業の学習内容】							
多様な国籍・文化を持つ乗客、特に海外VIPに対する最高水準のホスピタリティを英語で提供できる能力を養成します。国際的な環境下で発生する複雑な状況に対し、文化的な背景を理解した上で適切に対応できるプロフェッショナルを目指します。							
【到達目標】							
機内・空港での頻出する接客英語表現を習得し、流暢にコミュニケーションが取れる。 上級クラス(ファースト・ビジネス)のサービスを英語で提供し、VIPのニーズに合わせたパーソナルな対応ができる。 主要な異文化圏(欧米、アジア、中東など)のプロトコールやタブーを理解し、接客に反映できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション サービスとホスピタリティの国際的定義。異文化適応のプロセスと、CA/GSに求められる柔軟性を養う
2回目	国際儀礼(プロトコール)の重要性。要人、公人、著名人といった海外VIPへの特別な配慮と手順を確認する
3回目	グランドスタッフに必須のチェックイン、手荷物、乗り継ぎに関する複雑な状況への英語対応のトレーニング
4回目	安全アナウンス、サービスアナウンスのプロフェッショナルな英語表現のトレーニング
5回目	ファースト・ビジネス乗客へのウェルカムアプローチ。手荷物収納、シート操作説明の丁寧な英語表現を学ぶ
6回目	機内食のメニュー説明、ワイン・飲料のペアリングの提案を流暢な英語で行うトレーニング
7回目	機内販売における商品説明、免税品に関する質問への対応。支払いトラブルへの英語での対処法を学ぶ
8回目	欧米諸国の乗客が重視するパーソナルスペース、チップ、コミュニケーションスタイルを理解する
9回目	アジア(儒教圏)や中東(イスラーム圏)の食事、宗教、タブーに関する知識と、接客での配慮を学ぶ
10回目	遅延や欠航といったネガティブな情報を伝える際の誠実な英語表現と、代替案の提案を行う
11回目	英語での苦情(クレーム)に対する初期対応(傾聴、共感、謝罪)の表現。感情的な顧客への対処法を学ぶ
12回目	苦情の原因究明と解決策の提示。サービス・リカバリーを目的とした英語での行動と表現を学ぶ
13回目	実技試験:英語で、海外VIPが乗客という想定での総合ロールプレイング(搭乗から降機まで)を行う
14回目	実技試験のフィードバックに基づき、個人の英語表現や接客スキルの弱点を集中的に克服する
15回目	授業全体のまとめと、国際的な舞台でのCA/GSとしてのキャリア展望とプロ意識の再確認
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師のレジュメを使用する	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	ツアープランニング	授業 形態	演習	時間数 単位数	90 6	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
旅行者の安全と快適性を確保するための旅程管理業務の基礎知識と、具体的なツアー企画・添乗実務のスキルを習得する。							
【到達目標】							
・ツアープランナーに求められる法規と実務の基礎知識を理解する。 ・旅行業約款に則った正確な旅程表(日程表)を作成できる。 ・安全管理・危機管理の観点から、旅程におけるリスクを特定し、緊急時の対応手順を提案できる。 ・顧客ニーズに基づき、旅行会社として採算の取れるツアー企画書を作成できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション:プランニングと旅程管理の役割☒ ツアープランナーと旅程管理者の役割、業務範囲、責任。授業の進め方と評価基準。旅程管理主任者の資格の概要を理解する。
2回目	旅の基本設計:企画書の作成とコンセプト設定☒ 顧客ニーズの分析、ターゲット層の設定、旅行コンセプトの決定。ツアータイトルの付け方を学ぶ。
3回目	企画と収支:原価計算と旅行代金の設定基礎☒ 旅行代金の内訳(運送機関、宿泊、経費など)。原価計算の基礎と利益率。採算性を確保するための要素を理解する。
4回目	旅程表の基礎:国内線航空と宿泊の手配実務☒ 日程表(旅程表)の構成要素と記載事項。国内線航空券の種類と手配時の注意事項。宿泊予約の確認を行う。
5回目	国内移動の設計:JRとバスのダイヤと経路計算☒ JR時刻表の正確な読み方、乗り継ぎ時間。観光バスの運行時間、道路交通法上の規制。移動リスクの把握する。
6回目	旅程管理の核:旅程管理業務の定義と義務☒ 旅程管理業務とは何か。添乗員の携行書類、服務規律。旅程管理主任者証の提示義務を理解する。
7回目	旅行業約款(1):募集型企画旅行契約☒ 募集型企画旅行契約の成立、解除、変更。旅行者の責務と当社の責任。約款の重要な条文を読み込む。
8回目	旅行業約款(2):特別補償規定と手配旅行契約☒ 特別補償規定の適用範囲、損害賠償との違い。手配旅行の契約形態と旅程管理業務の適用を理解する。
9回目	安全管理実務:リスクアセスメントと事前準備☒ ツアーにおける潜在的リスク(事故、食中毒、天候)の洗い出し。危機管理マニュアルの作成する。
10回目	緊急時対応:事故発生時の報告と医療対応☒ 事故発生時の対応手順(救護、連絡、報告)。現地の医療機関との連携。保険会社への連絡を行う。
11回目	異文化理解と旅行者のケア☒ 各国の宗教、マナー、タブーの知識。文化の違いによるトラブル事例とその対処法。高齢者や障がい者への配慮。
12回目	実務演習 国内テーマツアー実践☒ 設定されたテーマ(例:文化体験、産業観光)に基づき、国内の日程表作成を実践。運賃・料金の計算演習する。
13回目	実務演習 国内テーマツアー実践☒ 実践に向けて最終準備を行う。
14回目	実務演習 国内テーマツアー実践☒
15回目	最終発表とフィードバック:プランニング総合演習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	実践英会話Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
就職活動時の英語面接に必要な語彙、イディオムを学び、実践形式でトレーニングする。							
【到達目標】							
就職活動時の英語面接で質問に対する受け答え、グループワークができるようになる。							

回数	
1回目	面接でよく使う英語表現(挨拶・丁寧な言い方)、面接の流れと質問パターンと自己紹介の基本構造(名前・出身・学歴)の理解
2回目	“Tell me about yourself.” の答え方、ポジティブな印象を与える言い回し、ペアワークで自己紹介練習
3回目	“Why do you want to work for us?” の答え方、志望動機のロジカルな組み立て方を理解できる
4回目	“What are your strengths and weaknesses?” の答え方、弱みをポジティブに言い換えるテクニックを磨く
5回目	“Tell me about your experience.” の答え方、アルバイト・インターン経験を英語で説明できる
6回目	STAR法(Situation, Task, Action, Result)の導入について学ぶ
7回目	ホテル業界の専門英語をロールプレイで実践:フロント業務・接客で使う英語表現、予約・チェックイン・クレーム対応のフレーズ
8回目	エアライン業界の専門英語をロールプレイで実践:客室乗務員・グランドスタッフの英語表現、機内アナウンス・安全説明・接客対応
9回目	クレーム対応・トラブルシューティングの英語、丁寧な言い換え・謝罪表現を習得できる
10回目	多文化対応の英語表現、ポライテネス(丁寧さ)とプロフェッショナルな言い方を習得できる
11回目	“Why should we hire you?” “Where do you see yourself in 5 years?”
12回目	面接で好印象を与える発音をトレーニングし、よく間違える単語の矯正ができる
13回目	即答力トレーニング、フィラー(Well, Actually, Let me think)の使い方を習得できる
14回目	理解度チェック／英語面接:これまでの学習成果を発揮して会話を続けることができる
15回目	理解度チェック／学期末の復習をすることができる
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャートラベル基礎	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
観光産業の全体像と旅行業の基本構造、旅行商品の種類と特性を理解する。							
【到達目標】							
旅行業法の概要と消費者に提供すべき安全管理・危機管理の基礎知識を説明できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 観光の概念と歴史的変遷を理解できる
2回目	観光産業の構成要素と広がり（宿泊、交通、飲食、MICEなど）を学ぶ
3回目	日本の旅行業の役割と歴史、旅行会社の分類と機能を学ぶ
4回目	旅行業法の目的と概要、登録制度について基礎的な事項を理解できる
5回目	旅行会社の組織と業務、カウンタースタッフの役割をロールプレイを通じて学ぶ
6回目	募集型企画旅行の仕組みと特徴を理解できる
7回目	受注型企画旅行と手配旅行の仕組みと特徴を理解できる
8回目	約款の基礎知識と重要性（募集型企画旅行約款）を理解できる
9回目	旅行商品の構成要素と価格設定の基礎を理解できる
10回目	運輸機関の基礎知識（航空、鉄道、バス、船舶）を学び、観光業との関係を論じることができる
11回目	宿泊施設の基礎知識（ホテル、旅館、その他）を学ぶ
12回目	安全管理の重要性：旅行会社の責務と取り組みを理解できる
13回目	危機管理の基礎：自然災害・事故・感染症への対応を学び、理解できる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャーバリスタ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
株式会社桜珈琲に入社。バリスタ、サービス業務に携わる。店長を3年間務め、店舗管理、新入社員研修、ドリンクメニュー開発、バリスタコンテスト出場選手のサポートにも携わる。学生時代・桜珈琲所属時共に、日本スペシャルティコーヒー協会主催JBC・JLACに出場。2019UCCコーヒーマスターズ近畿地区エスプレッソ部門1位。現在、元井珈琲マウンテンにて販売、ハンドドリッップ業務を行う。SCAJコーヒーマイスター							
【授業の学習内容】							
バリスタという職業を知り、それぞれの分野において、コーヒーについて学んだことを一つの武器として活かせるよう、必要な基礎知識・技術の習得を目指す。							
【到達目標】							
知識・技術... コーヒーについての基礎知識を習得する。美味しいエスプレッソとカプチーノ、さらには基本のラテアートをマスターする。キャリア教育... それぞれの分野だけにとどまらず幅広く多くのことを学ぶことで、よりオリジナリティある人材を目指す。							

回数	授業計画・内容
1回目	バリスタの仕事とは・エスプレッソとは・マシンの使用方法 バリスタの仕事について理解する・エスプレッソを体感する・ラテとカプチーノの違いを知る
2回目	マシンの使用方法 基本動作を学び抽出を体験する
3回目	エスプレッソについて、スチーミングについて エスプレッソの良いものと良くないものを知る・スチーミングを学び水ミルクで練習・マシン、グラインダーの片付け方を学ぶ
4回目	スチーミングについて、マシンの片付け方 水ミルクで練習・スチームミルク練習マシン、グラインダーの片付け方を学ぶ
5回目	ミルクの注ぎについてエッチングの技法 ○と♡の描き方を学び、1人で作成するエッチング方法を学び、描いてみる
6回目	復習・ミルクの注ぎについてエッチングの技法 ○と♡の描き方を学び、1人で作成するエッチング方法を、描いてみる
7回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習
8回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習
9回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習
10回目	カプチーノ(ラテアート)について きれいな○と♡を描けるようになるよう反復練習
11回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習
12回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習
13回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習
14回目	カプチーノ(ラテアート)について クマ、ウイング、チューリップを学び、描けるよう反復練習
15回目	課題レポート作成
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師配布のレジュメ	

授業シラバス

科目名	エクステンションゼミ	必修 選択	必修選択	年次	3	担当教員	
	Wメジャーメニュープランニング	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ハイアットリージェンシーオーサカに10年勤務。その後、飲食店を開業。 これまでに20か国以上のシェフや友人から料理や文化の情報交換をし、業務に携わる。 現在は株式会社ジスタスの代表取締役。 飲食事業のコンサルティング、農作物販売、人材教育、心理カウンセラーとしても活動している。							
【授業の学習内容】							
様々な顧客を想定し、立地、コンセプト、時間帯等に合わせたメニュープランニングを学ぶ。							
【到達目標】							
技術... テーマに沿ったメニューを開発できる。。							
キャリア教育... メニュー作りを通して、学生それぞれのオリジナリティーを確立する。							

回数	授業計画・内容
1回目	シラバス配布・授業内容の説明 メニュープランニングの概要が理解できる。
2回目	メニュー開発の注意点 原価・売価・原価率について学ぶ。
3回目	パスタ・ピザメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
4回目	
5回目	ライス・パンメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
6回目	
7回目	ワンプレートのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
8回目	
9回目	スイーツメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
10回目	
11回目	ドリンクメニューのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
12回目	
13回目	ランチボックスのプランニング 架空の店舗を設定し、テーマに基づいたメニュープランニングができる。
14回目	
15回目	これまでの振り返り まとめ授業をプランニングから調理工程までが 組み立てられる。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験:課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師からのレジュメ配布	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	リーダーシップ論	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
“企業が必要とする人材像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。							
【授業の学習内容】							
変化の激しい現代社会で暮らす上で必要不可欠なスキルです。本授業では、社会に出てからだけではなく、実生活でも役立つ様々なスキルを学ぶ事を狙いとする。							
【到達目標】							
演習などを通し、様々なリーダーシップスキルを理解し、生活に役立つさまざまなスキルを身につける。							

回数	授業計画・内容
1回目	【オリエンテーション】授業の目標、ゴールイメージの共有。リーダーシップの概要を理解する
2回目	自己分析・他者分析・タイプ分類を通して、特性を理解する
3回目	ラポール形成や傾聴スキルの分解を通し、傾聴／カウンセリングスキルを身につける
4回目	モチベーションを理解し、質問力を高め、人を動かす傾き方を学ぶ
5回目	目標設定①：KPIとKGIを理解、特定し目標の本質を理解する
6回目	目標設定②：目標設定の重要性を理解し、SMARTな目標設定ができるようになる
7回目	案件管理・行動管理：リーダーに必要な管理能力を身につける
8回目	マナーリテラシー①：マナーリテラシーを身につけ、自分のライフプランをたてられるようになる
9回目	マナーリテラシー②：卒業後に必要なお金に関する内容を理解し、リテラシーを深める
10回目	アサーティブな伝え方と、評価・フィードバックスキルを身につける
11回目	チームや組織の動かし方を理解し、巻き込み力を身につける
12回目	課題解決①：空・雨・傘のフレームワークを使った課題特定・アプローチスキルを身につける
13回目	課題解決②：フレームワークを使った課題解決に向けた提案を出来るようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

科目名	ビジネス総合スキル	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	ビジネスコンピューティングⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
情報化社会において、いかに情報を効果的に探索・評価・活用するかは、その人の人生において汎用性のある能力となる。そのために、情報リテラシー（情報を活用できる能力）を身につけるべく、最新のアプリケーションソフトを利用して実習する。							
【到達目標】							
ビジネスシーンで必要とされるプレゼンテーションを理解して、クライアントのニーズを汲み取り、期待を形に変えることで、聴衆の心を動かし行動に変えるプレゼンテーションができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の目的と概要の説明						
2回目	プレゼンテーションの基本構造① ターゲット、聴衆の特定、プレゼンテーションの明確化、聴衆のニーズに合わせた内容の分析や調整ができるようになる						
3回目	プレゼンテーションの基本構造② ストーリー構成を考える。起承転結を意識した物語を考えることができるようになる						
4回目	スライド設計① スライドマスターを使ってテンプレートを作成、フォント、配色、レイアウトを考えて視覚的に興味をひくスライドを作成できるようになる						
5回目	スライド設計② 表やグラフを使ってデータを効果的に見せるようになる						
6回目	スライド設計③ アニメーションやPowerPointの機能を使用して視覚的に効果的なスライドを作成することができるようになる						
7回目	課題作成①						
8回目	発表 パワーポイントの資料重視						
9回目	デリバリースキル① 発声、姿勢、アイコンタクトの取り方を研究して、効果的にプレゼンテーションができるようになる						
10回目	デリバリースキル② ジェスチャー、間の取り方を研究して、効果的なプレゼンテーションができるようになる						
11回目	課題作成② CANVAの基本 webの資料作成アプリを使用して、時短で資料が作成できるようになる						
12回目	発表 デリバリー重視						
13回目	ブラッシュアップ 質疑応答、フィードバックを元にプレゼンテーションの改善を行うことができるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
PC							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	企業プロジェクトⅢ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1996年～2006年まで大東楽器株式会社にて、チーフ・店長として教室運営、催事や販促の企画・実施、スタッフ育成などに従事する。 現在は企画プロデュース・プロジェクトマネジメント・ビジネストレーニングなど、ビジネス業務におけるマネジメントスキルや商品・人材に関わるテーマを扱う研修、講義を担当。 また、企業にてマネジメント、仕組化などのサポートを行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
14回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
15回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	コンシェルジュⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了の後、シンガポール・マリーナベイサンズに勤務。 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。 インタナショナル・ゲーミングスクールの校長として世界基準のカジノディーラーの人材教育。 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
各業界の枠を超え、顧客の潜在的なニーズを先読みし、期待を超える体験を創造するコンシェルジュ・サービスの理念と実践的な技術を習得します。特に、情報収集・提案力・ネットワーク構築といった専門スキルを統合的に養います。							
【到達目標】							
コンシェルジュの理念と、ホスピタリティ産業における価値創造の役割を説明できる。 顧客の潜在ニーズを正確に把握し、実現困難な要望にも対応するための解決策を複数提案できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 授業の概要と評価基準。「不可能を可能にする」コンシェルジュの理念。顧客体験における価値を理解する
2回目	各業界の**コンシェルジュ(ゲストリレーション、GS、旅の案内人)の役割、求められる知識、サービス提供の場の違いを理解する
3回目	実践フィールドワーク①
4回目	顧客の明示的ニーズと潜在的ニーズの識別。質問力、観察力、共感力のトレーニングを行う
5回目	域の歴史、文化、グルメ、イベントに関する深い知識。情報源(書籍、デジタル、人脈)の探索方法を学ぶ
6回目	コンシェルジュ業務に役立つITツール(顧客管理、予約システム)の活用。独自の情報データベースの作り方を学ぶ
7回目	実践フィールドワーク②
8回目	
9回目	外部のサプライヤー(レストラン、劇場、交通)との信頼関係の築き方。相互協力の重要性を学ぶ
10回目	席次、贈答、会食に関する国際的なプロトコール。VIPや要人への特別な対応と配慮を学ぶ
11回目	実践フィールドワーク②
12回目	
13回目	クリエイティブな思考と問題解決のフレームワークを学ぶ
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック振り返り／前期の内容を復習する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	プロモーションスキルⅠ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2004年～2012年 株式会社東通企画にて、主にテレビ番組の制作業務に携わり、TBS『キングオブコント』、朝日放送テレビ『おはよう朝日です』、テレビ大阪『きらきらアフロ』ではディレクターを担当。 2012年～2026年 放送芸術学院専門学校にて、テレビ番組や映画製作スタッフの育成に携わる。							
【授業の学習内容】							
ビジネスにおけるSNS記事、広告の作り方を学ぶ。							
【到達目標】							
主要なSNSプラットフォーム(X, Instagram, TikTok, Facebook)の特性とビジネス利用法を理解する。 ターゲット層に響くコンテンツ戦略と広告メッセージを作成するスキルを習得する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション プロモーションミックスにおけるSNSの位置づけ。コンテンツマーケティングの重要性。SNSをビジネスで使う目的とゴール設定を理解する。						
2回目	ターゲティングの基本(デモグラフィック、サイコグラフィック)。顧客のペルソナ作成と、SNS上での行動分析を学ぶ。						
3回目	Xの情報拡散力とバズるメカニズム。企業アカウントのトーン＆マナー。即時性・話題性を活かしたプロモーションを学ぶ。						
4回目	Instagramの世界観構築。ストーリーズ、リールの活用法。インフルエンサーマーケティングの基礎を学ぶ。						
5回目	TikTokのアルゴリズムとトレンド。ユーザー参加型、エンゲージメント重視のコンテンツ作成を理解する。						
6回目	TikiTok広告動画作成実習						
7回目	Facebookの実名性と企業ページ運用。Facebookグループを活用したコミュニティ運営と顧客ロイヤルティ向上を学ぶ。						
8回目	キャッチコピー作成の基本。AIDA/PASONAなどの訴求フレームワーク。プラットフォームごとの適切な文章量とハッシュタグ戦略を理解する。						
9回目	キャッチコピー作成実習						
10回目	画像・動画広告の基本構成。A/Bテストの考え方。視認性の高いデザイン要素の分析を理解する。						
11回目	動画広告を作成する。						
12回目	入札方式(CPM, CPC, CPA)の基本。オーディエンス設定(カスタム、類似)。広告アカウントの基本操作を学ぶ。						
13回目	実践形式で広告アカウントの基本操作を学ぶ。						
14回目	理解度チェック						
15回目	学期の総復習を行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	ソムリエ実習Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャペル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャペル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアスタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
ワインの基礎知識、サービス実習、テイスティングを学ぶ							
【到達目標】							
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本、ワインの味の違いを修得する。							

回数	
1回目	お酒やワインの分類を知ることができるようになる。
2回目	ワインの製造法、ブドウ品種を知ることができるようになる
3回目	フランス ボルドーのワインを知ることができるようになる Part 1
4回目	フランス ボルドーのワインを知ることができるようになる Part 2
5回目	フラン ブルゴーニュのワインを知ることができるようになる Part 1
6回目	フラン ブルゴーニュのワインを知ることができるようになる Part 2
7回目	フランスボルドーとブルゴーニュのワインを飲み比べて違いを理解することができる。
8回目	フラン シャンパーニュを知ることができるようになる Par1
9回目	フラン シャンパーニュを知ることができるようになる Par2
10回目	その他のフランスワインを知ることができるようになる
11回目	ワインを抜栓できるようになる Part1
12回目	ワインを抜栓できるようになる Part2
13回目	オールドワールドのワインを知ることができるようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	ホテルマネジメントⅠ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテル全体のマネジメント、部門別（オペレーション部門、サポート部門）のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。							

回数	
1回目	ホテルマネジメントの基本原則① 1. 科目の概要、目標解説。 2. ホテル分類を理解できるようになる。
2回目	ホテルマネジメントの基本原則② 1. 経営マネジメント 2.運営マネジメントを理解できるようになる。
3回目	ホテルの経営形態① 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルのアセットマネジメントを理解できるようになる。
4回目	ホテルの経営形態② 1. ホテルの経営方式を理解できるようになる。
5回目	世界のホテルビジネス① 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
6回目	世界のホテルビジネス② 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
7回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴① 1. オペレーションシステムとサービス 2. ホテルブランドの確立と戦略を理解できるようになる。
8回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴② 1. レベニューマネジメントを理解できるようになる。
9回目	世界のホテルビジネス③ グローバルホテルチェーン研究((個人ワーク)
10回目	世界のホテルビジネス④ グローバルホテルチェーン研究((個人ワーク)
11回目	世界のホテルビジネス⑤ グローバルホテルチェーン 個人ワーク発表
12回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
13回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
14回目	前期試験： 1. 用語定義・概念解説 2. 論述式
15回目	振り返り： 1. 前期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	ホテルビジネス実務検定	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェ이터、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催レストランサービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテルビジネス実務検定1級合格のために、それぞれの項目を記憶ではなく理解できるように解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション、ホテルの基礎2： 観光産業の概況、ホテル産業の概況が理解できるようになる。
2回目	ホテルの基礎2： 観光産業の概況、ホテル産業の概況が理解できるようになる。
3回目	宿泊部門1： 宿泊部門の概要、宿泊部門の実務が理解できるようになる。
4回目	宿泊部門2： 宿泊部門の概要、宿泊部門の実務が理解できるようになる。
5回目	料飲部門： 料飲部門の概要、料飲部門の実務が理解できるようになる。
6回目	宴会部門： 宴会部門の概要、宴会部門の実務が理解できるようになる。
7回目	調理部門： 調理部門の概要、調理部門の実務が理解できるようになる。
8回目	マーケティング部門： マーケティング部門の概要と実務が理解できるようになる。
9回目	総務・人事部門： 総務・人事部門の概要、実務が理解できるようになる。施設管理部門1：施設管理門の概要、実務が理解できるようになる。
10回目	施設管理部門2：施設管理門の概要、実務が理解できるようになる。仕入・購買部門：購買部門の概要・実務が理解できるようになる。
11回目	経理・会計部門： 経理・会計部門の概要・実務が理解できるようになる。
12回目	過去問題模擬試験
13回目	過去問題模擬試験解説
14回目	理解度チェック(筆記試験)
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習・理解度チェック解説
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
ホテルビジネス基礎編(一般財団法人 日本ホテル教育センター)	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	エアライン実務Ⅰ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
キャビンアテンダント(CA)の最も重要な責務である安全運航と保安維持に関わる専門知識を深め、緊急時における正確な判断力とチーム連携能力を実習を通じて習得する。							
【到達目標】							
・航空機内の主要な安全・保安設備の機能と使用手順を完全に説明できる。 ・航空法規に基づいた緊急着陸/着水時の脱出手順をシミュレーションし、リードできる。 ・機内における不審者対応やハイジャック対応など、高度な保安業務の手順を理解し実践できる。							

回数	
1回目	オリエンテーション 航空法におけるCAの役割と権限。安全運航の最優先性。安全基準(運航規定)の読み込み。
2回目	救命胴衣、酸素マスク、消火器、非常灯などの位置と機能確認。**出発前の点検(プリフライト・チェック)**の重要性を学ぶ。
3回目	緊急時の**命令口調(Brace, Brace, Head down!)の訓練。パニックを防ぐための乗客への指示方法を学ぶ。
4回目	「90秒ルール」の原則。脱出ドアの開け方とスライドシューターの展開手順。ドアモードの切替確認を学ぶ。
5回目	スライド降下中の援助方法。機内からの脱出が困難な乗客(要介護者、幼児など)の援助手順を学ぶ。
6回目	機内火災の主な原因と初期消火の手順。各種消火器(水、ハロン、ブランケット)の使い分けを学ぶ
7回目	航空保安に関する基礎知識。機内における不法行為(乗務員への暴行、喫煙など)への対応手順を学ぶ
8回目	機内での不審物発見時の報告と隔離手順。テロリズムの脅威に対する認識と対応フローを学ぶ
9回目	与圧喪失のメカニズムと乗務員の行動。酸素マスクの使用手順と乗客への対応を学ぶ
10回目	機内で発生しやすい急病(心臓発作、意識不明など)の初期対応。AEDと医療キットの使用を学ぶ
11回目	インシデント(ヒヤリハット)報告の重要性。危機管理体制と乗務員のメンタルヘルスを学ぶ
12回目	着水時の手順、救命ボートの展開。水上でのサバイバル(信号発信、救助待機)を学ぶ
13回目	実技試験: 班ごとに、設定された緊急事態(例: 機内火災)に対するチーム対応を実演する。
14回目	実技試験: 複合的な緊急事態(例: 与圧喪失後の着水)に対する総合的な対応力を評価する。
15回目	全体の振り返りと、安全意識の維持向上を行う。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意: 規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	観光学Ⅰ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
観光現象を単なる産業活動として捉えるだけでなく、社会学、経済学、文化人類学など複数の学問分野から考察する能力を養います。観光の理論的枠組みを理解し、複雑な観光現象を多角的に分析できる基盤を確立します。							
【到達目標】							
・主要な観光理論モデル(例:プッシュ&プル理論、観光発展段階論)を説明できる。 ・観光の経済的・社会文化的・環境的影響を定量的・定性的に分析できる。 ・現代観光学における主要な論争点(例:オーバーツーリズム、ツーリストの類型)について、自らの意見を論理的に構築できる。							

回数	
1回目	授業オリエンテーション 観光学とは何か。他の学問との関連性。観光研究における定性調査と定量調査の基礎を学ぶ。
2回目	観光の需要理論:プッシュ&プル要因☑ なぜ人々は旅に出るのか。観光動機に関する理論的枠組み。プッシュ要因(内発的)とプル要因(外発的)を学ぶ。
3回目	観光の供給と発展段階論☑ 観光地がどのように形成・発展・衰退するか。BATHEモデルを中心とした観光地のライフサイクルを学ぶ。
4回目	観光の経済効果分析(1):基礎概念☑ 観光収入、雇用創出、地域経済への波及効果。乗数効果と漏出(リーケージ)の概念を学ぶ。
5回目	観光の経済効果分析(2):データ活用☑ 観光に関する統計データ(観光白書、国際収支統計)の読み解き方。データに基づく経済政策の評価を学ぶ。
6回目	観光の社会文化的影響:ポジティブとネガティブ☑ 地域住民の生活、文化、言語への影響。ハッスル&バッスルと観光客税の論議を学ぶ。
7回目	ホストとゲストの関係性:相互作用の社会学☑ 観光客と住民の接触がもたらす影響。社会距離、真正性(オーセンティシティ)の問題を学ぶ。
8回目	ツーリストの類型論と行動分析☑ Plogの類型(アロセントリック、サイコセントリック)など。旅行者の行動パターンとマーケティングへの応用を学ぶ。
9回目	観光と政治:国際関係と外交ツールとしての観光☑ 観光が平和構築や紛争に果たす役割。観光外交、政治情勢とインバウンド・アウトバウンドへの影響を学ぶ。
10回目	観光の倫理と責任:エシカルツーリズム☑ エシカルツーリズム、フェアトレード、動物福祉など。倫理的な観点からのツアーの設計と評価を学ぶ。
11回目	観光とデジタル化:DXとスマートツーリズム☑ AI、ビッグデータ、IoTが観光体験、地域管理、マーケティングに与える影響を学ぶ。
12回目	オーバーツーリズムの構造的要因と対策☑ 観光集中がもたらす問題(環境、交通、住民生活)。世界各地の規制事例と分散戦略を学ぶ。
13回目	日本の観光政策の変遷と課題☑ 戦後から現代までの日本の観光政策(例:観光立国推進基本法)。現在の課題と政策提言を学ぶ。
14回目	ケーススタディ:成功・失敗事例の分析☑ 世界の先進的な観光地の成功要因と、失敗した政策の背景を学術的に分析する。
15回目	最終発表会:観光現象の理論的考察☑ 学生各自が選んだ観光現象について、理論的枠組みを用いて分析し発表する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	Global CommunicationⅤ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 困難なことの対処方法について話す
2回目	U1.2 過去にあった困難なことについて話す
3回目	U1.3 過去と現在にあったものを比較し、ディスカッションをする
4回目	U1.4 意見を述べるエッセイを読む、書く
5回目	U1.5 Time to Speak: ・スピーキング評価:ロールプレイ・プレゼンテーション「過去の懐かしい思い出」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U2.1比較を用いた表現を使って、探究や研究について話す
7回目	U2.2 最上級を用いた表現を使って、異なる環境下での生物について話す
8回目	U2.3 重要な情報の交換、自由時間の行動についてアドバイスする
9回目	U2.4 場所についての説明文を書く
10回目	U2.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「アウトドア計画を立てる」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U3.1 様々な性格のタイプについて話す
12回目	U3.2 現在分詞を使って、好きなもの・嫌いなものについて話す
13回目	U3.3 リクエストや助けが必要な場面での会話を練習する
14回目	U3.4 パーソナルステイトメントを書く
15回目	U3.5 Time to Speak: 学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	

Evolve

授業シラバス

科目名	外国語Ⅰ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	英文法&英会話Ⅴ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習（語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について）をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野（個人情報や家族、買い物等）に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U1.1 困難に直面した時の表現方法を学ぶ 現在の習慣についての表現を学ぶ
2回目	U 1.2 困ったことを表す表現を学ぶ 過去にあった習慣、困難なことについての表現を学ぶ
3回目	U1.3 強調表現、/tʃ/の発音を学ぶ 様々なコミュニケーションの種類について学ぶ、問題についてディスカッションをする、また強く賛成する際の表現を学ぶ
4回目	U1.4 エッセイの組み立て方を学ぶ
5回目	U1.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U2.1 宇宙、海洋探査に関する表現を学ぶ 比較を用いた表現を学ぶ
7回目	U2.2 自然界に関する単語を学ぶ 最上級を用いた表現を学ぶ
8回目	U2.3 アクセントの強弱、リズムについて学ぶ、/w/,/v/の発音を学ぶ 情報を求める、また提供する際の表現を学ぶ
9回目	U2.4 数に関する表現を学ぶ 遠く離れた場所での生活についての記事を読む
10回目	U2.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U3.1 性格のタイプに関する表現を学ぶ 関係詞を使った表現を学ぶ
12回目	U3.2 強い感情を表す単語を学ぶ 現在分詞を用いた表現を学ぶ
13回目	U3.3 語末の/t/の発音を学ぶ 礼儀正しいイントネーション(発音)を学ぶ、リクエストをする、また答える際の表現を学ぶ
14回目	U3.4 動物園の求人広告を読む パーソナルステイトメントの書き方を学ぶ
15回目	U3.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	実践英会話Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	前期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界の現場で使える英会話を習得する。市販の教材で習う「長い英語」ではなく、海外のホテル現場で実際に使われている「生きた短い英語」を学び、反射的にアウトプットできる力を養う。また、発音とイントネーションにも力を入れ、アクセントの少ない英語を話せるようになることを目的とする							
【到達目標】							
英語の発声、発音の基本を身につける。ホテルにおいて想定される種々の状況において、的確な英語を自信を持って話せるようになる。基本的な英文の文書を書くことができるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション、あいづち、Greetingsができるようになる
2回目	正しい英語の発声ができるようになる
3回目	母音と子音の正しいPhonetic Interpretationができるようになる
4回目	電話応対ができるようになる
5回目	食事サービスができるようになる
6回目	EMERGENCYができるようになる
7回目	ミーティングができるようになる
8回目	ディスカッションができるようになる
9回目	プレゼンテーションができるようになる
10回目	ビジネス文書が書けるようになる
11回目	苦情応対ができるようになる
12回目	頻出イディオムが使えるようになる
13回目	英米豪加のアクセントの特徴を捉えることができるようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	キャリアデザイン	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
“企業が必要とする人材像”や“人が集まる企業の共通点”のノウハウを活かし、企業再生事業を展開中。							
【授業の学習内容】							
社会人として必要とされる基礎的な知識・姿勢・スキルについて、講義とグループワークを交えながら学びます。ブライダル業界をはじめとした実社会で求められる「自律的に考え、行動できる力」の土台を育成します。							
【到達目標】							
・社会人として必要な基礎的マインド・知識を理解し、自分の言葉で説明できる ・時間・お金・健康・リスクなどの“自己管理”の重要性を認識し、行動に移せる							

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション：マナーとルール：挨拶、時間、報告・連絡・相談の基本を理解し、日常で使えるようになる
2回目	タイムマネジメント①：時間の使い方を可視化し、優先順位を整理できるようになる
3回目	タイムマネジメント②：指示の受け方、タスク管理、段取りの重要性を理解し、主体的に行動できるようになる
4回目	職業リテラシー①：給料、休み、責任などを知り、「働く意味」を考えられるようになる
5回目	職業リテラシー②：企業における評価指標を理解し、評価を上げる項目を理解する。
6回目	マナーリテラシー①：企業の収入と支出のバランスを学び、基本が理解できるようになる
7回目	マナーリテラシー②：給料・支出・税金・貯金の仕組みを理解し、身の丈にあったお金の管理ができるようになる
8回目	マナーリテラシー③投資・貯蓄・資産形成などの制度を知り、未来に向けたお金の使い方を考えられるようになる
9回目	特別授業①：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
10回目	社会保障と保険の基礎知識：社会保険・国保・年金制度の違いを理解し、自分に必要な選択ができるようになる
11回目	特別授業②：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
12回目	人間関係とコミュニケーションの基本：上司・同僚・お客様との関係づくりの考え方を理解し、実践できるようになる
13回目	特別授業③：社会人の先輩に聞く「社会に出る上で必要なスキル」
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
筆記用具	

授業シラバス

科目名	コミュニケーション	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	プレゼンテーションスキル	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
航空会社にて接客サービスを徹底的に学ぶ。その後、航空会社VIPルーム、外資系製薬会社を経て、人事労務コンサルティング会社にて社長秘書兼管理業務を担当すると同時に、企業研修、専門学校で講師として登壇する。現在は企業研修講師の他に、産業カウンセラー協会研修部で講座の企画、広報を担当すると共に、出版社企画のダイバーシティ＆インクルーシブのプロジェクトにも参加、女性の社会活動支援を行っている。							
【授業の学習内容】							
本授業ではPowerPointの高度な操作を習得し、説得力ある資料作成力を磨きます。さらに実践ワークを繰り返し行うことで、聴衆を惹きつける話術や所作などプレゼンテーション力全般を向上させます。							
【到達目標】							
ビジネスシーンで必要とされるプレゼンテーションを理解して、クライアントのニーズを汲み取り、期待を形に変えることで、聴衆の心を動かし行動に変えるプレゼンテーションができる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション 授業の目的と概要の説明						
2回目	プレゼンテーションの基本構造① ターゲット、聴衆の特定、プレゼンテーションの明確化、聴衆のニーズに合わせた内容の分析や調整ができるようになる						
3回目	プレゼンテーションの基本構造② ストーリー構成を考える。起承転結を意識した物語を考えることができるようになる						
4回目	スライド設計① スライドマスターを使ってテンプレートを作成、フォント、配色、レイアウトを考えて視覚的に興味をひくスライドを作成できるようになる						
5回目	スライド設計② 表やグラフを使ってデータを効果的に見せるようになる						
6回目	スライド設計③ アニメーションやPowerPointの機能を使用して視覚的に効果的なスライドを作成することができるようになる						
7回目	課題作成①						
8回目	発表 パワーポイントの資料重視						
9回目	デリバリースキル① 発声、姿勢、アイコンタクトの取り方を研究して、効果的にプレゼンテーションができるようになる						
10回目	デリバリースキル② ジェスチャー、間の取り方を研究して、効果的なプレゼンテーションができるようになる						
11回目	課題作成② CANVAの基本 webの資料作成アプリを使用して、時短で資料が作成できるようになる						
12回目	発表 デリバリー重視						
13回目	ブラッシュアップ 質疑応答、フィードバックを元にプレゼンテーションの改善を行うことができるようになる						
14回目	期末の試験を行う						
15回目	授業の振り返りを行う						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価（不合格）とする。 ※注意：規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	課題制作	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	卒業制作	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
1996年～2006年まで大東楽器株式会社にて、チーフ・店長として教室運営、催事や販促の企画・実施、スタッフ育成などに従事する。 現在は企画プロデュース・プロジェクトマネジメント・ビジネストレーニングなど、ビジネス業務におけるマネジメントスキルや商品・人材に関わるテーマを扱う研修、講義を担当。 また、企業にてマネジメント、仕組化などのサポートを行う。							
【授業の学習内容】							
実際の企業が抱える課題を解決するための企画提案の立案手法及び内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション手法を学習する。本クラスの課題を行うことでビジネス基礎力となる論理思考力、企画提案力、プレゼンテーション力の向上を図る。							
【到達目標】							
前期で学んだマーケティングの知識を活用し幅広くリサーチと考察を行うことにより真の問題発見とその解決法を導き出し、納得・共感を得る提案ができるようになる。							
回数	授業計画・内容						
1回目	オリエンテーション(企画立案作業も実施):授業の概要、課題の内容を理解し、企業が求める企画書の作成に積極的に取り組めるようになる						
2回目	企画立案作業1:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
3回目	企画立案作業2:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
4回目	企画立案作業3:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
5回目	企画立案作業4:前期に取り組んだ事前調査の情報を整理し、成果につながる企画の立案ができるようになる						
6回目	プレゼン資料制作1:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
7回目	プレゼン資料制作2:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
8回目	プレゼン資料制作3:評価者に企画内容がしっかり伝わるプレゼン資料が作成できるようになる						
9回目	プレゼン原稿作成:評価者に企画内容と熱意が伝わる言葉を作ることができるようになる						
10回目	プレゼンリハーサル1:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
11回目	プレゼンリハーサル2:自身の考えをしっかりと伝える話し方ができるようになる						
12回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
13回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
14回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
15回目	最終プレゼンテーション:評価者に向けて企画内容を熱意をもって伝えられるようになる(試験)☑						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	コンシェルジュⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
ラスベガス・ディーラースクールと韓国7LUCKカジノでディーリングトレーニングを修了の後、シンガポール・マリーナベイサンズに勤務。 大阪観光大学および神戸山手大学のツーリズムプロデューサー養成講座の客員教授、トラジャル旅行ホテル専門学校のカジノマナー講座の非常勤講師を歴任。 インタナショナル・ゲーミングスクールの校長として世界基準のカジノディーラーの人材教育。 大阪府と地元企業のIR関連アドバイザー支援(大阪府議会・IR代表質問の作成補助、地元企業のIR参画「大阪IR推進100社会」広報担当)							
【授業の学習内容】							
各業界の枠を超え、顧客の潜在的なニーズを先読みし、期待を超える体験を創造するコンシェルジュ・サービスの理念と実践的な技術を習得します。特に、情報収集・提案力・ネットワーク構築といった専門スキルを統合的に養います。							
【到達目標】							
コンシェルジュの理念と、ホスピタリティ産業における価値創造の役割を説明できる。 顧客の潜在ニーズを正確に把握し、実現困難な要望にも対応するための解決策を複数提案できる。							

回数	
1回目	法的な制約や倫理的な問題を含む要望への対応。断る際の丁寧な表現と代替案の提示ができる
2回目	満席のレストラン、完売のチケットなど、予約困難な要望への電話交渉と代替案の提示を実践する
3回目	コンシェルジュが関わる複雑なクレームへの対処。顧客満足度を回復させるための迅速かつパーソナルな対応を学ぶ
4回目	実践フィールドワーク①
5回目	外国人顧客の多様な発音、要求、感情を正確に聞き取るための英語リスニング訓練
6回目	依頼、提案、謝罪、断りなど、コンシェルジュ特有の丁寧で説得力のある英語表現を学ぶ
7回目	実践フィールドワーク②
8回目	
9回目	欧米、アジア、中東など、文化圏ごとのタブー、慣習、時間感覚の違いと接客への適用を学ぶ①
10回目	欧米、アジア、中東など、文化圏ごとのタブー、慣習、時間感覚の違いと接客への適用を学ぶ①
11回目	実践フィールドワーク③
12回目	
13回目	期末試験に向けて、英語トレーニングを行う
14回目	理解度チェック:事前課題として出された複合的な依頼に対し、情報収集・提案・英語での対応を評価する
15回目	理解度チェック振り返り／学期末の復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	プロモーションスキルⅡ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2004年～2012年 株式会社東通企画にて、主にテレビ番組の制作業務に携わり、TBS『キングオブコント』、朝日放送テレビ『おはよう朝日です』、テレビ大阪『きらきらアフロ』ではディレクターを担当。 2012年～2026年 放送芸術学院専門学校にて、テレビ番組や映画製作スタッフの育成に携わる。							
【授業の学習内容】							
ビジネスにおけるSNS記事、広告の作り方を学ぶ。							
【到達目標】							
主要なSNSプラットフォーム(X, Instagram, TikTok, Facebook)の特性とビジネス利用法を理解する。 ターゲット層に響くコンテンツ戦略と広告メッセージを作成するスキルを習得する。							
回数	授業計画・内容						
1回目	インプレッション、リーチ、エンゲージメント、コンバージョンなどの基本指標を理解する。						
2回目	KGI/KPIの設定と効果測定のプロセスを学ぶ。						
3回目	炎上のメカニズムと企業のダメージについて、事例検討を行う。						
4回目	危機発生時の初動対応とガイドライン。責任あるSNS利用について学ぶ。						
5回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
6回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
7回目	仮想企業の商品/サービスに基づき、ターゲット、目標、予算を設定し、SNSキャンペーンの全体戦略を立案する。						
8回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
9回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
10回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
11回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
12回目	立案した戦略に基づき、特定のSNSでの広告クリエイティブ案(画像、動画のラフ案、コピー)を作成する。						
13回目	グループごとに企画とクリエイティブを発表。教員および受講生からのフィードバックに基づき改善点を議論する。						
14回目	グループごとに企画とクリエイティブを発表。教員および受講生からのフィードバックに基づき改善点を議論する。						
15回目	全体の復習。AIを活用したプロモーションや最新のSNS機能・トレンドの解説を行う。						
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA、89点～80点をB、79点～70点をC評価とし、69点～60点をD評価とし、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される						
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験						
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名	ホスピタリティ概論	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	ソムリエ実習Ⅱ	授業 形態	演習	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2000年6月神戸ポートピアホテル フレンチレストラン アランシャベル支配人に就任 2012年5月 トランテアン(アランシャベル閉店後のフレンチ)支配人に就任 2012年12月 日本料理神戸たむら 支配人に就任 2019年4月和食 中華グループ 7店舗レストランの統括支配人に就任 2023年7月料飲部 部長付支配人クオリティ担当に就任 またポートピアホテルで社内講師も兼任する。ホテル32年勤務のうち 2023年11月人材会社 株式会社ホテリアススタッフ 西日本統括本部長就任 現在に至る。(有資格) ソムリエ HRS1級 西洋料理テーブルマナー講師 日本料理テーブルマナー講師 英検2級							
【授業の学習内容】							
ワインの基礎知識、サービス実習、テイスティングを学ぶ							
【到達目標】							
ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本、ワインの味の違いを修得する。							

回数	
1回目	イタリアワインを知ることができる
2回目	ドイツワイン、スペインワインを知ることができる
3回目	デキャンタージュをすることができるようになる
4回目	ワインと料理のマリアージュを知ることができる
5回目	課外授業 ワインサービス用の道具、ワインの管理について知ることができる
6回目	課外授業 シャンパーニュ・サブラージュ、ワインと料理のマリアージュ、グラスの拭き方についてを知ることができる
7回目	ワインのサービスができるようになる
8回目	ボジョレーヌーボーを知ることができる
9回目	ニューワールドのワインを知ることができる
10回目	アメリカのワインを知ることができる
11回目	ワインのオーダーを取ることができるようになる
12回目	ワインのアップセールスや原価計算を知ることができる
13回目	フランスワインのラベルの見方を知ることができる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	ホテルマネジメントⅡ	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテル全体のマネジメント、部門別（オペレーション部門、サポート部門）のマネジメントの方法論、、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。							
【到達目標】							
ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。							

回数	
1回目	部門別マネジメント(Food & Beverage_1): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できるようになる。
2回目	部門別マネジメント(Food & Beverage_2): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できるようになる。
3回目	部門別マネジメント (Banquet Service): 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのブライダル戦略を理解できるようになる。
4回目	ホテルインスペクション
5回目	部門別マネジメント (Sales & Marketing): 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門を理解できるようになる。
6回目	部門別マネジメント (Humen Resouces): 1. 人材マネジメント（外資系ホテルと日系ホテルとの違い） 2. トレーニングシステムが理解できるようになる。
7回目	ホテルの情報システム 1. 宿泊部門の情報システム 2. 料飲部門の情報システム 3. 管理部門の情報システムを理解できるようになる。
8回目	ホテルの会計基準 1.ホテルの会計基準の特徴 2.ホテル業の収益会計と費用会計を理解できるようになる。3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。
9回目	リスクマネジメント(危機管理)① 1. 防火管理を理解できるようになる。
10回目	リスクマネジメント(危機管理)② 2. 事故管理 3.防犯管理(盗難犯罪の防止) 4. UG。暴力団への対応 5. 遺失物管理 を理解できるようになる。
11回目	ホテル総支配人の役割 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3.外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館を理解できるようになる。
12回目	ホテル・マネジメントⅠ・Ⅱレビュー： ホテル・マネジメントを総括し全体像を理解できるようになる。
13回目	ホテル・マネジメントⅠ・Ⅱレビュー： ホテル・マネジメントを総括し全体像を理解できるようになる。
14回目	後期試験： 用語定義・概念解説・記述式
15回目	振り返り： 1. 後期試験解説 2. その他質疑応答
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験：筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	ホテルエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	関連法規	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
複数の外資系、日系ホテル開業に携わり、ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントレセプションMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。現在はホテル・レストラン運営コンサルタントとして活動。スモールラグジュアリーホテル副総支配人。1996年第1回日本メートルドテルコンクール)第5位。全日本メートルド・テル連盟 副会長、メートルド・セルヴィスの会 幹事、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催レストランサービスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サービスコンクール日本大会(メートルド・セルヴィス杯) 審査員。							
【授業の学習内容】							
ホテルビジネスに関する様々な法務知識を学習する。							
【到達目標】							
ホテルビジネスに関する様々な法務知識を学習することにより、ホテル経営・運営に関するルールを理解できるようになる。							

回数	
1回目	オリエンテーション ホテルに関する法の分類を理解できるようになる。
2回目	契約： 契約に関する基礎知識を理解できるようになる。
3回目	不法行為： 不法行為に関する基礎知識を理解できるようになる。
4回目	宿泊契約1： 宿泊契約を理解できるようになる。
5回目	宿泊契約2： 宿泊契約を理解できるようになる。
6回目	宿泊契約2： 宿泊契約を理解できるようになる。
7回目	宿泊施設内でのトラブル1： 宿泊施設内でのトラブルに関する法律を理解できるようになる。
8回目	宿泊施設内でのトラブル2： 宿泊施設内でのトラブルに関する法律を理解できるようになる。
9回目	人権侵害の防止：人権侵害の防止を理解できるようになる。
10回目	公益通報者保護法： 公益通報者保護法を理解できるようになる。
11回目	個人情報に関する法律個人情報保護法：個人情報に関する法律個人情報保護法を理解できるようになる。
12回目	反社会的勢力との関係： 反社会的勢力との関係を理解できるようになる。
13回目	景品表示法： 景品表示法を理解できるようになる。
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験： 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを使用します	

授業シラバス

科目名	エアラインエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	エアライン実務Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2009年JALグループに新卒入社。先任客室乗務員としてVIPを含め旅客対応を担う。							
【授業の学習内容】							
これまでに学んだ接客・サービススキルを土台に、フライトを円滑に進行させるチームマネジメント能力、上級サービススキル、およびホスピタリティの本質を追求し、サービスにおけるプロフェッショナルを養成する。							
【到達目標】							
・リードCA(チーフパーサー)の役割を理解し、ブリーフィングからデブリーフィングまでの一連のチーム運営を主導できる。 ・上級クラス(ファースト/ビジネス)におけるパーソナライズされたサービスを提供できる。 ・クレーム対応において、顧客満足度を回復させるための高度な問題解決スキルを発揮できる。							

回数	
1回目	リードCA(チーフパーサー)の役割と責任。乗務員間の連携とチームビルディングを学ぶ
2回目	ブリーフィングで伝達すべき情報(フライト情報、乗客情報、安全情報)の構成と伝え方を学ぶ
3回目	プロフェッショナルなアナウンスの練習。緊急時と通常時のトーンの使い分け。多言語アナウンスの基礎を学ぶ
4回目	上級クラスの特徴的なサービス(アメニティ、ミールサービス)。パーソナライズされた接客の追求を学ぶ
5回目	機内食の準備と提供手順。ワイン、カクテル、特別食に関する知識とベアリングの提案を行う
6回目	VIP(重要顧客)への特別な対応手順。機内でのプライバシー保護と情報漏洩対策を学ぶ
7回目	重大なクレーム(欠航、遅延、サービス欠陥)に対する対応フローを学ぶ
8回目	各国、地域の文化背景(宗教、食事、習慣)がサービスに与える影響。文化的相違への柔軟な対応ができるようになる
9回目	ホスピタリティとサービスの違い。顧客の期待を超えるための観察力と共感力を養う
10回目	顧客ロイヤルティ(常連客)の維持。マイルプログラムの仕組みとセールス。CAが担うブランドアンバサダーとしての役割を学ぶ
11回目	デブリーフィング(業務終了後の報告会)の構成。サービスの改善点、安全上の問題、インシデントの正確な報告ができるようになる
12回目	上級クラスサービスのロールプレイング。細部までパーソナライズされた接客スキルの評価を行う
13回目	難しいクレーム事例に基づき、満足度回復までのプロセスを実践。チームでの問題解決能力を評価する
14回目	4年間の実務訓練の成果をまとめたポートフォリオをレビュー。模擬採用面接を通じて就職活動に直結させる
15回目	ブリーフィングからデブリーフィングまでの一連の流れを、安全・保安・サービスを含む総合フライトとして実践する
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	ツーリズムエクササイズ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	観光学Ⅱ	授業 形態	講義	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
College of Southern Nevada観光学部卒業後、アメリカ・日本の旅行会社で勤務。							
【授業の学習内容】							
「観光学Ⅰ」で学んだ理論を応用し、観光が地域社会や地球環境に与える影響を深く考察します。SDGs(持続可能な開発目標)の観点から、環境保全と地域活性化を両立させる持続可能な観光のあり方を研究し、実践的な**地域創造(地域マネジメント)**のスキルを養います。							
【到達目標】							
・持続可能な観光の原則とSDGsとの関連性を明確に説明し、具体的な施策を提案できる。 ・DMO/DMCの役割と機能、地域資源のマネジメント手法を理解する。 ・観光の視点から地域課題を発見し、政策提言の形で具体的な解決策を提示できる。							

回数	
1回目	持続可能な観光の概念と原則☑ サステイナブルツーリズムとは何か。環境、社会、経済の三側面のバランス。国際的な定義と基準を学ぶ。
2回目	SDGsと観光:17の目標と観光の役割☑ SDGsの各目標と観光産業が果たすべき役割の分析。観光を通じた貧困削減、教育、気候変動対策を学ぶ。
3回目	環境負荷の測定と管理☑ 観光によるCO2排出、水資源利用、廃棄物処理の問題。環境フットプリントの概念と低減策を理解できる。
4回目	エコツーリズムと自然保護区のマネジメント☑ エコツーリズムの定義、原則、成功事例。国立公園やジオパークなどの自然保護区における観光管理を学ぶ。
5回目	文化遺産の保護と観光利用のジレンマ☑ 世界遺産や無形文化遺産の観光客による摩耗、毀損。保護と活用の適切なバランスの追求を学ぶ。
6回目	地域資源のマネジメント:DMO/DMCの役割☑ DMO(観光地域づくり法人)の機能、組織形態、財源。地域連携と観光マーケティングの戦略について学ぶ。
7回目	地域ブランドの構築と観光マーケティング☑ 地域ブランドとは何か。地域固有の魅力(食、景観、物語)の掘り起こしと発信戦略を学ぶ。
8回目	観光と住民生活の調和☑ 観光公害対策と住民の理解促進。観光収益を住民に還元する仕組み(コミュニティ・ベースド・ツーリズム)について理解できる。
9回目	ガバナンスとマルチステークホルダー連携☑ 行政、民間企業、住民、NPOなど、多様な**関係者(ステークホルダー)**間の合意形成と協働を学ぶ。
10回目	観光による貧困削減と雇用創出☑ 開発途上国における観光の役割。インクルーシブ・ツーリズムと地域内での公正な利益分配について学ぶ。
11回目	観光政策の評価とモニタリング☑ 策定した観光政策の効果測定方法。KPI(重要業績評価指標)の設定とモニタリングを学ぶ。
12回目	地域課題発見演習:フィールドワークの企画☑ 特定の地域を対象に、観光の視点から地域課題を発見するための調査計画を策定する。
13回目	地域課題分析演習:政策提言の構成☑ 発見した課題に対し、持続可能な観光の観点から具体的な解決策と政策提言の構成を行う。
14回目	政策提言プレゼンテーション準備☑ 提言内容を効果的に伝えるためのプレゼンテーション資料の作成とリハーサル。
15回目	最終政策提言発表会:地域創造への提言☑ 学生各自が選んだ地域の課題と、その解決に向けた政策提言を発表する。
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 課題提出
【使用教科書・教材・参考書】	
講師によるレジュメを配布	

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	Global CommunicationVI	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
金欄短期大学英文科卒業。実用英語技能検定1級取得。英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 生活の中でのサポートチームについて話す
2回目	U4.2 再帰代名詞を使って、何かを決定するために必要な評価について話す
3回目	U4.3 有利な点／不利な点などの観点からジョブシェアリングについて話す
4回目	U4.4 記事のサマリーを書く
5回目	U4.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「資金調達のためのイベントを計画する」 ・学期末プレゼンと連動する内容
6回目	U5.1 仮定法の表現を使って、新しい技術が人に与える影響について話す
7回目	U5.2 未来のコミュニケーションについてディスカッションをする
8回目	U5.3 ビデオゲームについてディスカッションをする 確かなもの・不確かなものについて話す
9回目	U5.4 オンライン記事に対するコメントを、例を交えて書く
10回目	U5.5 Time to Speak: ・スピーキング:ロールプレイ・プレゼンテーション「コミュニティ改善計画」 ・学期末プレゼンと連動する内容
11回目	U6.1 時制を用いた表現を使って、予期せぬ名声について話す
12回目	U6.2 間接話法を使って、予期できない状況について話す
13回目	U6.3 予期せぬ状況の中での会話を練習する
14回目	U6.4 面白いストーリーを書く
15回目	学期末プレゼン
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験50%／実技試験50%
【使用教科書・教材・参考書】	

Evolve

授業シラバス

科目名	外国語 I	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	英文法&英会話VI	授業 形態	講義	時間数 単位数	30 2	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間 I 部						
【担当教員 実務者経験】							
英語教授に関する資格を持ち、英語教授2年以上の経験があります。							
【授業の学習内容】							
リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能において、オンデマンド授業で予習(語彙や文法、スピーキングやライティングにおける表現方法について)をし、オンデマンド授業で学んだことを対面授業で会話やライティングを通して実践する。							
【到達目標】							
最も身近な分野(個人情報や家族、買い物等)に関する頻度の高い表現を理解し、文章を書くことができる。単純なトピックについて自分の意見を述べる事が出来るようになる。母語話者とは一般的なディスカッションや会話の交渉できる。							

回数	
1回目	U4.1 仕事上の関係に関する表現を学ぶ [so..that][such..that][even][only]を用いた表現を学ぶ
2回目	U4.2 アイディアの評価に関連する表現を学ぶ 再帰代名詞[self][selves]、[other][another]を用いた代名詞について学ぶ
3回目	U4.3 子音-母音のリンキング(発音)について学ぶ、2語(フレーズ)でのストレス(発音)について学ぶ 有利な点、不利な点について話す
4回目	U4.4 チームワークについての記事を読む サマリーの書き方を学ぶ
5回目	U4.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
6回目	U5.1 感情のコントロールに関する表現を学ぶ 仮定法を用いた表現を学ぶ
7回目	U5.2 やりたい事、気が進まない事に関する表現を学ぶ 「if」以外の仮定法の表現を学ぶ
8回目	U5.3 /I/,/e/,/æ/の発音について学ぶ、文中でのストレス(発音)を学ぶ 確かなもの、不確かなものを述べる際の表現を学ぶ
9回目	U5.4 翻訳アプリに関する記事を読む 自分の意見をサポートする例を述べる表現を学ぶ
10回目	U5.5 Unitの復習 Time to Speak準備、学期末プレゼン準備
11回目	U6.1 名声に関する表現を学ぶ 過去形・過去進行形・過去完了形・過去完了進行形を用いた表現を学ぶ
12回目	U6.2 「主張する」などの伝達動詞の表現を学ぶ [can]などの助動詞を用いた間接話法を学ぶ
13回目	U6.3 複合動詞の発音について学ぶ、母音の長短(発音)について学ぶ 憶測を立てる、また他人の憶測に反応する際の表現を学ぶ
14回目	U6.4 恥ずかしい失敗についての投稿を読む 長文や短文を用いた面白いストーリーの書き方を学ぶ
15回目	U6.5 Unitの復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 筆記試験

【使用教科書・教材・参考書】	
Evolve	

授業シラバス

科目名	外国語Ⅱ	必修 選択	必修選択	年次	4	担当教員	
	実践英会話Ⅲ	授業 形態	演習	時間数 単位数	60 4	開講区分	後期
学科	ホスピタリティマネジメント科 昼間Ⅰ部						
【担当教員 実務者経験】							
2006年より各種大学・専門学校・民間英語スクールにて英語講師として勤務、その他、通訳、字幕翻訳、書籍の執筆等の業務に従事							
【授業の学習内容】							
ホスピタリティ業界の現場で使える英会話を習得する。市販の教材で習う「長い英語」ではなく、海外のホテル現場で実際に使われている「生きた短い英語」を学び、反射的にアウトプットできる力を養う。また、発音とイントネーションにも力を入れ、アクセントの少ない英語を話せるようになることを目的とする							
【到達目標】							
簡単な語彙の組み合わせを学び、現場で即戦力として英語でコミュニケーションができるようになる。							

回数	
1回目	発音、発声、子音、母音を理解できるようになる
2回目	発音記号を理解できるようになる
3回目	受付の英会話ができるようになる
4回目	食事サービスのか英会話ができるようになる
5回目	苦情処理の英会話ができるようになる
6回目	ビジネスemailとreportが書けるようになる
7回目	頻出イディオムが使えるようになる
8回目	電話応対ができるようになる
9回目	引き継ぎに必要な英会話ができるようになる
10回目	バーやレストランにて必要な英会話ができるようになる
11回目	顧客とのコミュニケーションができるようになる
12回目	英語ミーティングができるようになる
13回目	英語でプレゼンテーションができるようになる
14回目	理解度チェック
15回目	理解度チェック(欠席者)／復習
評価基準	A・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 点数 90点以上をA評価、89点～80点をB評価、79点～70点をC評価、69点～60点をD評価、59点以下はF評価(不合格)とする。 ※注意:規定の出席率66.7%以上を満たし、かつA～D評価の場合、単位認定される
評価方法	本授業においての評価は、試験・平常点・出席率の総合評価とする。 試験: 実技試験

【使用教科書・教材・参考書】	
講師が用意したレジュメを毎回配布する	